

『巫女神道吉備派道統総覧』

— 近現代の巫女弾圧策で壊滅、逃亡、秘教神道化した吉備系巫女神道の理論的再興 — 旧吉備王国(郷里岡山県および兵庫県、広島県、山口県など山陽地方)系巫女神道・巫女歌道 令和新時代 最終協力版

平成9年 巫女、社家子女、歌道家子女らが歌書や神儒仏の秘伝奥義の岩崎への相伝を開始し、岩崎が継承と調査研究を開始
平成23年7月6日 岩崎が本資料を起筆
令和元年6月2日

著作権法および『岩崎純一全集』第6巻に基づき、協力者の著作部分に係る著作権の全部の岩崎への譲渡が完了したことをもって、本資料を公表するため、最も早期からの作成資料『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』の名称を『日本旧派歌道流派総覧』に変更し、これを母体として、本資料を含むその他の資料と合わせた『岡山県巫女特別協力資料』を設置
令和2年3月28日 公開、令和2年5月18日 最終更新

筆頭編著者： 岩崎 純一

(岩崎純一学術研究所所長、財団事務局長、大学非常勤講師等)

編纂総本部： 岩崎純一学術研究所(IJAI)

編纂作業： 同上第二学舎(『岩崎純一全集』編纂学舎)第一学廊第九学館第二学庭

編纂作業補助： 同上第二女子学舎(『岩崎純一全集』編纂女子学舎)第一女子学廊第一女子学館第〇女子学庭～第九女子学庭

本資料群の編著者・協力者一覧

岩崎純一学術研究所(IJAI)
岡山県巫女特別協力資料

(1)『日本神道道統図』(『全集』第14巻 別添資料)

(2)『吉備・ヤマト相関図』(『全集』第14巻 別添資料)

(3)『吉備巫女神道・ヤマト皇統相関系図』(『全集』第32巻 別添資料)

(4)『日本旧派歌道流派総覧』(『全集』第92巻 別添資料)

(5)『日本旧派歌道流派系統図』(『全集』第92巻 別添資料)

(6)『吉備巫女神道に対する弾圧策の実相とその再興計画』(『全集』第14巻 別添資料)

(7)『巫女神道吉備派道統総覧』(『全集』第14巻 別添資料)

(8)『巫女神道吉備派の大局的歴史観マップ』(『全集』第14巻 別添資料)

姉妹資料	『巫女神道比較表』(『全集』第14巻)
	『巫女神道探訪記 - 日本的アニミズム感覚の源流を訪ねて -』(『全集』第14巻)
	『大日本帝国陸軍歩兵第十連隊(岡山・鉄五四四八部隊)戦史調査資料』(『全集』第34巻)
岩崎純一学術研究所ウェブサイト (本資料群の掲載場所)	https://iwasakiunichi.net/
<p>※ なお、本資料群は、上掲の巫女や歌道子女らが所属する社家や神社、岩崎が協力している女子寮の閲覧室の一部でも入手できる。また、岩崎が非常勤講師や特別講師を務める大学の講義でも、適宜使用する。</p>	
参考文献(岡山県巫女特別協力資料の全資料の参考文献)	
Copyright (C) 2012-2019 岩崎純一 All Rights Reserved.	

本資料は、先に作成した別掲の『日本旧派歌道流派総覧』のうち、下記目次の項目のみを取り出した資料である。
 巫女神道の道統の名称・分類は、それぞれの女系巫女家・社家に伝わる家伝や秘儀秘伝をもとに、巫女らと岩崎が改めて考案する形で再興したものである。
 これらの巫女神道は、近現代の巫女弾圧の国策によって神道史・日本史上から抹消された、神道・歌道不可分の時代のシャーマニズム系神道で、多くが吉備の女系神道である。
 近現代政府・国家神道による巫女神道弾圧の側面は、『吉備巫女神道に対する弾圧策の実相とその再興計画』を見よ。
 近現代政府・国家神道による巫女歌道弾圧の側面は、『日本旧派歌道流派総覧』を見よ。
 伯家神道歌壇など、吉備の巫女神道歌壇と縁の深い男系神道歌壇については、『日本旧派歌道流派総覧』を見よ。

目次

序

(1) 巫女神道・巫女教(斎の巫女・斎女の神道)・原始日本神道・古道歌壇(縄文・弥生時代、列島先住・先占の日本列島民、太古の帰化渡来人)

女系女子のシャーマニズム・巫女神道(女王卑弥呼の邪馬台国・倭国連合など)と呪歌・巫女舞歌道の時代、およびその系譜を引く近現代の巫女神道社家歌壇

(3) 古代ヤマト系神社神道から近代社格制度下・神社本庁統制下までの古代神社・古道歌壇

(1)の原始の巫女神道と次項(2)の斎王系(ヤマト王権系)巫女神道との合同演舞を観覧できる歌壇(近代に作られた巫女神楽・巫女歌謡)

序文 岩崎 純一 令和2年3月28日 筆

本資料は、別掲の『日本旧派歌道流派総覧』のうち、上記目次の項目のみを取り出した資料である。

神道と歌道とは、神道が巫女神道・呪術であり、歌道が巫女歌道・呪歌であった太古のシャーマニズムの時代においては、ほとんど区別が見られないばかりか、原初においては全く同一のものであった。「神道」や「歌道」の語と概念も、まずはヤマト王権勢力(とりわけ、男系男子神職、男系男子歌道家当主)が区別して生み出したものであり、そしてそれらの確立期は、ほとんど明治以降と言ってよいのである。すなわち、明治政府・大日本帝国政府から現代の政治宗教体制・戦後民主主義に至るまでの、西洋学問的手法による日本宗教や日本文芸の分析結果が、「神道」や「歌道」であるとさえ言える。このことは、『歌道総覧』ほか各資料でも概説しておいた。

従って、岩崎純一学術研究所(IJAI)が中心となって理論的再興を試みている非常に古式の吉備の巫女神道についても、日本の歌道一派として『歌道総覧』にも目次と概要を残しつつ、改めてここに『巫女神道吉備派道統総覧』として掲げるものである。

なお、「道統」とは、主に儒教の系統・流派の意に用いられるが、吉備の巫女らの間でもこの語が用いられており、本資料群においても用いることとした。

吉備の巫女神道は、戦後・現代においては、歴史の表舞台に出ることは全くなくなっていく。その理由としては、祭祀・儀式の内容が前近代的であり、しかも政府、宮内庁、文科省、文化庁、神社神道勢力(神社本庁、伊勢神宮、都道府県神社庁や、大規模単立宗教法人の神社)、神道政治連盟、日本会議、新しい歴史教科書をつくる会など、強権的な公私勢力に対する呪詛の秘儀を執り行っているためである。しかし、2012年には、東日本大震災の被災地へ届けられるはずであった米(伊勢神宮の御料米)を神社本庁の職員が持ち帰った一件について、神社本庁を崇る秘儀を、ほとんどの吉備の巫女神道が超流派の立場で執り行えばかりか、内密情報を漏洩させるなど、現実的で意義ある活動をも裏で実行しているのである。

巫女神道吉備派の巫女らは、シャーマニズムの巫女であって、神社神道の巫女ではないため、神社神道のほとんどを専有する神社本庁系神社や大規模単立神社には所属せず、主に黒住教や金光教、神習教など、吉備の旧教派神道系教団に所属している。元より、明治から昭和にかけての巫女禁断令により、国家神道から排除され、廃絶させられたか、教派神道に強制配属させられた。

ただし、一部の巫女は他の教派神道教団や秘教神道・神道霊学教団に流れた。巫女の受け入れ先、逃亡先となった主な教団は、各巫女神道の項目に列挙した。

ところで、これらのいくつかの教団のシンボルマークは、以下に挙げる通り、日本国旗(日の丸、日章旗)に似ていながら(それを意識しながら)、しかしそれとはあえて異なる特徴を示している。これらの教団がこのようなシンボルマークを掲げていることは、偶然ではない。そのほとんどが、旧国家神道や現日本国とそれらの神道観に代わる新たな国家や国体、神道観をかつて(あるいは現在も)樹立しようと画策していた(いる)教団である。

(注:巫女神道吉備派代表の岩崎純一は、あくまでも吉備史や神道の学的研究者であって、これらの教団に所属しておりません。ここではシンボルマークを引用したのみであって、本資料がこれらの教団の協力や支援を得ているわけではございません。)



黒住教(右のシンボルは七代目を意味する)



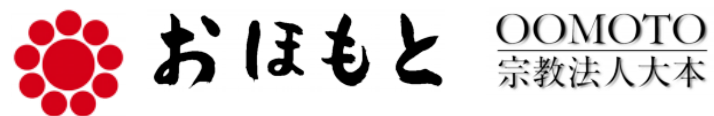
金光教



神習教



神道天行居



大本

(1) 巫女神道・巫女教(斎の巫女・斎女の神道)・原始日本神道・古道歌壇(縄文・弥生時代、列島先住・先占の日本列島民、太古の帰化渡来人)

女系女子のシャーマニズム・巫女神道(女王卑弥呼の邪馬台国・倭国連合など)と呪歌・巫女舞歌道の時代、およびその系譜を引く近現代の巫女神道社家歌壇

※ この項の各神道・歌道流派名の多くは、当時の呼称ではなく、現代の巫女および巫女神道社家(本資料の協力者ら)と、本資料の筆頭著者の岩崎による、便宜上の命名である。

流派名	本拠地	代表的歌人・歌論者・当主	流派の主体	流派の成立時期・成立事情(cは世紀)	特徴	衰退・分裂・断絶の時期(cは世紀。血統断絶の場合、掲載可能な限りその旨を記す。) ●衰退・分裂・断絶に至る記述 ◆は存続についての記述	衰退・分裂・断絶の理由 ●最終断絶以外(一時的な衰退など)の理由も記載した。 ◆は存続についての記述
太古女系王権(邪馬台国など)のシャーマニズム、言語文化	諸説あり 畿内説 九州説 吉備説 四国説 など	卑弥呼(女王兼筆頭巫女)日の巫女の王(卑弥呼と同一人物または斎皇家が主張する別の女系女王)巫女	血縁・地縁 主に女系女子の巫女 「めかんなぎ(巫)」「斎(いつき)の巫女」 「斎女(いつきめ)」「巫女(御子、神子)」 主に女系男子 「おかんなぎ(覲)」	2c~3c頃	●神懸り神事と言語活動(言霊)とに何ら区別がなく、定型詩の創作そのものが宗教祭祀である。 ●神事の主体は女王(主に女系女子の王)であり、そのもとで大勢の女系女子の巫女(「めかんなぎ(巫)」「おかんなぎ(覲)」)らが神事を補佐する。 ●神事の内容は、巫女舞・磐座(いわくら)祈禱・託宣・亀卜・鬼道・神剣演舞などである。	衰亡 ●邪馬台国も日本列島の多くの巫女政権の一つに過ぎず、男系男子の王を首長とするヤマト王権に滅ぼされて国名「ヤマタイ=ヤマト」を吸い上げられたか(可能性高し)、邪馬台国の本体の全部または一部がヤマト王権(のちの大和朝廷、ひいては日本国)そのものに移行したか(可能性低し)、いずれかである。 ●本資料の協力者である吉備の巫女らは、半数が邪馬台国畿内説か九州説に収まるが、吉備説をとる者も半数ほどいる。後者の場合、吉備の巫女神道・歌道はすなわち邪馬台国の鬼道の本体であって、かつ日本神道と和歌の始原であると考えている。また、畿内説・九州説をとる場合も、吉備の巫女らは、吉備の女系巫女連合文明が邪馬台国(ヤマトの男系朝廷文明の前身)に先行して存在し、ヤマトがその吉備の巫女神道を男系神社神道に改変し、我が物として取り込んだと考えている。岩崎も、全てではないが、概ねこの後者の立場をとる。 ●邪馬台国(ヤマタイ=ヤマトか)の言語自体は、「魏志倭人伝」(『三国志』『魏書』第30巻烏丸鮮卑東夷伝倭人条)の分析により、奈良時代日本語系であることが分かっており、つまり現在の日本語の原型である。これは邪馬台国の所在地について、方言が互いに異なるはずの九州説(筑紫説、日向説)、出雲説、吉備説、畿内説などのいずれを採っても成立する。ところが、元のヤマト王権言語は、百済系言語を基層とした末期渡来人系(弥生系)言語で、先発の(先住の縄文人や弥生人の)倭語とは異なった言語である。従って、倭語(日本語)とは、初期のヤマト王権連合(葛城氏、平群氏、巨瀬氏など)が邪馬台国征討の際に山陽・瀬戸内海沿岸地域の言語を吸い上げて東進し、現在の奈良で改変して定着させた(ヤマト連合に流入した)後発の列島語である可能性が高い。 ●古代四大王権のうち、ヤマトと(ヤマトに早期に追従した)筑紫を除く二王権(出雲、吉備)の言語は、縄文語を基層としつつ、新羅と手を組んだことから、新羅語の名残も残したと考えられる。特に吉備は、長らく誼を結んできた新羅とあからさまに連合して対ヤマトの反乱を起こしたが、その言語は縄文語・新羅語折衷言語であったと考えられる。吉備と新羅の交流の開始は、百済の建国および百済王族の渡来によるヤマト建国よりも古い。上記と考え合わせると、吉備語や出雲語(出雲族の言語)のほうが、(母音を八つ有した)奈良日本語の基層である可能性も考えられる。	

これ以降、現在の岡山県を中心に残る太古の巫女神道・巫女舞歌道について掲載するが、まずはこれらに共通する事項をまとめて掲げる。

●基本的に、女系女子血統であり、筆頭巫女とその他の複数の巫女から成る共同体を形成している。非ヤマト王権、非皇室神道(宮中祭祀)、非神社神道、非国家神道系の巫女神道を継承する。

●現在でも、「氏」と「姓」と「家名」と「苗字」と「女系家名」と「女系苗字」を使い分けている家・巫女が多く、また、生活上は夫の苗字を名乗る場合もあれば、巫女の活動上は巫女固有の家名を名乗る場合もある。

●いわゆる家紋(男系)とは別に、女系家紋(女紋)を有する。女紋の風習は、近畿の一部(特に「吉備町」など「吉備」の名を持つ地区)と吉備の巫女神道にしか見られない。

●旧暦(太陰太陽暦の天保暦)で生活している。

●太陽信仰と月信仰を基盤とする自然信仰、アニミズム、シャーマニズムを継承。神社神道(ヤマト王権下の神道から国家神道までを含む)が、主に男性神職が祝詞を唱える奉納祭祀であって、女性神職や巫女があくまでもその従属的地位にあるのに対し、これらの家の祭祀は、女系女子が中心となって行う歌垣・呪的歌謡・神楽歌、巫女舞(巫女神楽)、原始的ト占、鬼道、太陽崇拝、磐座(いわくら)での憑依、神剣による演舞などである。

●単に「吉備」・「吉備国」・「吉備王国」という場合、次の地域を指す。
備前国、備中国、美作国、播磨国、備後国、安芸国、周防国、長門国の全土、讃岐国の一部と、出雲国、因幡国、伯耆国のうち出雲王国勢力圏外の地域

●これらに関連して「岡山県」という場合、現在の自治体のそれではなく、吉備王国の旧首府としてのそれを指す。

●埴輪は岡山県(吉備)で発祥した。

2c~3cのことである。現在、「特殊器台・特殊壺」と特称されるものである。倉敷市の榎築墳丘墓からの出土が知られる。埴輪は、吉備王国の繁栄と共に、次第に吉備全土(岡山県、兵庫県、広島県など)に普及し、ヤマト王権圏に到達・普及し、大規模古墳に大量に配置されることとなる。

●神社の原型は岡山県(吉備)で発祥した可能性が高い。
同県の神懸り神事担当の社家・巫女は、神社の呼称として「姫社(ひめこそ)」を用い、阿加流比売(アカルヒメ)を日の巫女の王として崇めている場合が多々ある。この「ひめこそ」を冠する神社には、姫社神社、佐賀県鳥栖市姫方町の姫古曾神社、大分県東国東郡姫島村の比賈語曾神社、難波の比賈基曾神社がある。総社市福谷には、文字通り「姫社神社」があり、巫女たちが巫女舞を継承している。姫社系神社の鳥居の左右の柱は男柱と女柱を表し、鳥居の周囲で行う巫女舞歌道・歌垣も、純潔巫女が行うことになっている。すなわち、巫女神道と歌道とは、密接不可分なものとして同時に発祥した。従って、神社は当初、「姫社」として発祥したのであって、「姫社」は漢風呼称である「神社(じんじゃ)」の旧称であると考えるのが妥当である。この「姫社」がヤマト王権圏内に普及して「神社」となり、跳ね返って同語反復の「姫社神社」が設置されたと考えられる。

大分県姫島の比賈語曾社は、吉備の姫社が波及し、離島ゆえに現代までよく残った例である。

また、別掲の息長氏の斎皇は、代々自ら阿加流比売(アカルヒメ)の化身を名乗っている。「福谷」の隣の字は「秦」であるが、これは百済系渡来氏族の秦氏と関連するか。秦氏や息長氏は天之日矛や阿加流比売を崇拝しており、岡山県の巫女神道家の多くも、これらの氏族の祭祀を担った巫女集団であった可能性もある。しかし、秦氏や息長氏が早くからヤマト王権連合の構成氏族となったのに対し、岡山県の吉備氏や和気氏は新羅と組んでヤマトに抵抗しており、これらの氏族と親和した巫女集団であった可能性をとれば、「姫社」も、ヤマト王権とは無関係に吉備地方で発生していた(「ヒメコソ」の「ヒメ」は「アカルヒメ」の「ヒメ」ではない)可能性もある。

●3c~4cには、吉備地方には既に定型詩・歌(和歌の原型)文化があり、吉備氏、和気氏などの在地豪族が巫女歌壇を擁護していた。

●前期吉備国は、巫女舞・鬼道・呪歌・託宣などの神懸り神事を司る巫女(女王)を多数の巫女と豪族が補佐する連合王権であり、女王・巫女共同体と豪族とが対立関係にはなかった。

●5c、吉備王国はヤマトに次ぐ第二位の規模の古墳文明を築く。(造山古墳、作山古墳など。造山古墳を応神天皇陵とする説は、『神道道統図』や『吉備・ヤマト相関図』で詳説。)

●吉備氏の乱(吉備下道臣前津屋の乱、吉備上道臣田狭の乱、463年)の失敗をもって、ヤマト王権の優位が確定的となり、ヤマト王権は逆に、畿内中央豪族や、懐柔して畿内中央に呼び寄せていた吉備氏豪族を吉備に派遣し返して、吉備古墳文明を征服した。吉備国の版図に存在する吉備津神社や吉備津彦神社の発祥である。吉備氏やその他の吉備王国豪族(和気氏など)は、ヤマト王権連合の構成豪族となり、山陽地方の全土がヤマト王権傘下となった。

●以後、巫女神道も、これらの岡山・山陽地方の神社の社家・巫女として残った。

●これらの神社や旧阿曾郷(現総社市阿曾地域)に、鳴釜神事なる神事が点在して残る。太古の時代は、処女である巫女が担った神懸り神事であった。現在も、巫女が確保できず男性神職が行う場合は、基本的に女装しなければならない風習があり、当然これは、太古の名残である。鳴釜神事は、古代吉備王国の版図(非ヤマト系原住民居住地)の各地で行われていたものが、王国の中心部(岡山県)にのみ色濃く残ったものと推測される。

●歌垣の類似儀式は、岡山県では上記のほか、平成時代まで阿哲台地域に残り、ドリーネやウバーレを神格化して行われていたほか、県外では、(万葉に歌垣が行われたと確かに記されている)常陸筑波山に残っていた。但し、このような巫女祭祀はこれら岡山県の社家に固有のものではなく、上代には各氏族で行われていたものの、現在は岡山の社家など全国の局所にのみ残っているものと考えられる。

●近代に入ると、まずは巫女禁断令(1873、教部省発布、神霊の憑依などによって託宣を得る行為の禁止)および社家の世襲の廃止によって、巫女神道は壊滅的な状況に陥った。現在に至るまで、この「神懸り・憑依現象」と「女系血統」の法的禁断が、巫女神道にとって最大の傷となっている。これ以降、神懸り・憑依の方法(枕詞などによる言霊・神々の呼び寄せなど)は秘伝化して、岡山県・吉備に集中的に残る。これらには確かに、呪詛の方法も含まれており、明治新政府がその宗教行政(悪政)に対して巫女の呪詛がかけられることを恐れ、巫女舞そのものを根本から禁断とした可能性は、容易に推定できる。本資料では、秘伝の内容は記さないが、秘伝を継承する社家を記す。

●その太古当時の太陽信仰の一部は、岡山発祥の黒住教と金光教に流入している(幕末三大新宗教の二つ。残る天理教は現在、自然信仰の性質が消失)。しかし、近代化当時の明治新政府による大教宣布運動の失敗、神仏合同布教禁止令、神道事務局の設置と大教院の解散、教部省の廃止と内務省社務局の設置、神社局と宗教局への分離、神祇院の設置による宗教行政の混乱などにより、黒住教と金光教も変質して現在に至っている。

●女系巫女神道から見れば、神社神道・国家神道も非常に新しい神道観ではある。しかし、その(いわゆる)伝統的な神道・仏教や現在の神社本庁を中心とする神社神道から見た、教部省・大教院の神仏観の異質性も、特筆すべきである。大教宣布運動や教派神道、仏教改革に参加した神道・仏教教団とその後継教団の大部分は、現在では諸教・新宗教扱いであり、伝統宗教の系譜ではない。実際のところ、教部省・大教院の宗教行政・思想は、神社本庁の神道ではなく、現在の教派神道連合会の方針のほうに近い。

●大教宣布運動・教派神道に参加した(政府・教部省によって厚遇された)歌人の出身地や、神道・仏教系新宗教教団の立教・立宗地は、岡山県に極端に偏っている。これには、単に政府が古代以来の吉備王国・吉備地域の歴史を尊重した意味と、政府が神道を再編するにあたり(巫女禁断令を出すほど)旧来の巫女神道の神懸り神事の残存を恐怖した意味の、双方があると考えられる。

これ以降、現在の岡山県を中心に残る太古の巫女神道・巫女舞歌道について、具体的に掲載する。但し、どの女系巫女神道家の女子がどの神道・歌道の伝授を受けているかは厳密には確定できない場合が多く、本資料編纂の代表者である岩崎および協力者である巫女らの相互の交流、情報交換に基づき、今後とも加筆修正を加える。

<p>楯築墳丘墓流鬼神道(広義には、温羅伝説、鬼ノ城伝説、吉備津彦伝説、</p>	<p>旧吉備王国全域、特に岡山県全域、備前・備中・備後、瀬戸・備前諸島、笠岡諸島、</p>	<p>主に下掲の女系巫女神道家の巫女(御子、神)</p>	<p>血縁・地縁 主に女系女子の巫女 「めかんなぎ(巫)」 「斎(いつき)の巫女」 「斎女(いつきめ)」 「巫女(御子、神子)」 「梓巫女(あずさみこ)」</p>	<p>2c～3c頃に始まり、現代まで続く</p>	<p>●壱輪は岡山県で発祥しており、これがヤマトに流入して大規模な前方後円墳文明が築かれたが(吉備も同様だが)、当初吉備では「壱輪」とは呼ばれず、現在「特殊器台・特殊壺」と呼ばれる巫女の祭器として楯築墳丘墓などで発祥している。下掲の巫女神道では、現在もこれらを用いて秘伝の巫女舞を舞っているが、和歌の起源と思われる呪歌も唱えている。 ●また、岡山県総社市阿曾地域を中心に県内各地に残る鳴釜神事は、世に知られた現在でも、男性神職が行う場合は女装しなければならない。しかし本来は、女</p>	<p>●下掲の岡山県や山陽地方の各巫女神道系歌道の解説を参照せよ。 ●温羅・鬼ノ城・吉備津彦・桃太郎伝説(現おかやま桃太郎まつり、うらじゃの由来)をめぐっては、吉備地方の巫女神道家側と、大和朝廷側(近代社格制度以降の吉備津神社・吉備津彦神社の男系巫女を含む)とは、主張が対立している。前者は巫女神道の女系秘儀伝授の意義を強調し、後者は天皇の命(勅命)を絶対的真理とする勸善懲惡論の正当性を強調する点に特徴がある。 吉備の巫女らは、主に次の通り述べる。 「温羅が吉備に製鉄技術をもたらし、鬼ノ城を中心に吉備を治め、吉備の人々や巫女と協力し合って暮らしたところに、突如としてヤマト王権から吉備津彦の軍が送られ、吉備がヤマト王権の支配下に置かれた。(あるいは、温羅＝吉備津彦とする説では、吉備土着の、または、ヤマトから送られたが吉備に入ってから反旗を翻した温羅＝吉備津彦が、吉備の人々と共にヤマトと戦ったが、破れた、とする。また、温羅＝吉備津彦を、吉備氏の乱でヤマトと戦った吉備下道臣前津屋や吉備上道臣田狭に比定する巫女もいる。) ヤマトの男系神社神道に討たれた巫女神道は、秘伝秘儀化せざるを得ず、近代の巫女禁断令(1873、教部省発布、神霊の憑依などによって託宣を得る行為の禁止)と社家の世襲の廃止によって、女系女子どうしの最終的な地下秘伝となった。但し、温羅・吉備津彦に当たる人物は実在したと考えられるものの、桃太郎伝説(鬼退治伝説)は、これらの人物を模した室町時代以降の創作である。明治時代以降の教科書に見られる桃太郎の説話は、とりわけ創作的である」 一方の吉備津神社・吉備津彦神社・神社本庁側は、主に次の通り主張する。 「鬼ノ城を征服し吉備を治めていた鬼の温羅が、吉備の人々から搾取を繰り返した。人々がヤマト王権に遠路遥々助けを求めてきたので、ヤマトの王(崇神天皇)は吉備津彦を吉備に派遣して温羅を征伐し、吉備を平和に導いた。吉備の人々は喜び、吉備津彦を祀り、ヤマトの民として幸せに暮らした」 但し、神社本庁が専らこの主張であるのに対し、吉備津・吉備津彦神社には、「人々は、以</p>
--	---	------------------------------	---	--------------------------	---	---

<p>桃太郎伝説などを含む、またはこれらの根源)</p>	<p>高、塩飽諸島(発祥地は現岡山県倉敷市日畑、一部は同市矢部)</p>	<p>(脚丁、神子)</p>	<p>「渡り巫女・歩き巫女」 「傀儡女(くぐつめ)」 主に女系男子 「おかんなぎ(観)」 「傀儡子・傀儡師(くぐつし、くぐつ、かいらいし)」</p>		<p>系の純潔女子が行わなければならない、神々と交信する歌(神楽歌)も必要であって、巫女神道家ではこれを守っている。 ●このように、当時の神事はすなわち女系巫女の巫女による神懸り神事で(現在のよう、男系男子が祝詞を唱える奉納祭祀ではなく)、必ず巫女による定型歌の発声・歌唱が含まれることから、楯築墳丘墓での巫女神事は和歌の原初形態の一つであると考えられる。</p>	<p>前の温羅時代とあまり変わり映えない吉備津彦の軍政を否定なしに受け入れ、死後もその霊を怒らせて災禍を招くことがないよう、神社に祀ることにした」との趣旨が見られる。吉備津神社のほうが伊勢神道・吉田神道寄りの神社ではあるが、この解釈に大差は見られない。温羅＝吉備津彦説では、ヤマトと戦った吉備の英雄として祀ったことになる。また、吉備津彦があまりにヤマトに反抗的になったため、ヤマトは吉備津彦を吉備の始祖の地位から外し、弟の稚武彦命にすげ替え、これが吉備氏の始祖となったとする説は、吉備伝説とヤマト伝説(日本神話)の両方で見られる。 また、これらの伝説が栄西(吉備津神社社家出身)や細川幽斎の作であるとする説もある。 温羅、吉備津彦、桃太郎の実在性への疑義は仮に不問としても、その説話の教訓については、楯築墳丘墓での神楽歌や一部の鳴釜神事が明らかにヤマト王権の影響を受けない(ヤマト王権以前からの吉備在地の)巫女の祭祀であることを踏まえれば、後者(神社本庁陣営)の伝説のほうが、ヤマト王権の軍事行動の正当性を謳うための創作であろうという推定はできる。 温羅を吉備津彦とし、かつそれを下道・上道の首長とする説は、吉備津彦の登場が崇神朝(雄略朝の前)、吉備氏の乱が雄略朝期であることからすれば疑問だが、『記紀』の記述のほうが疑わしく、同説の妥当性は否定できない。 また、日本武尊(建部)にまつわる伝説(岡山に残る「建部」の地名の起源)でも同じことが言える。大和朝廷にとっては、日本武尊は専ら吉備を征討し、圧政から吉備の人々を救い、吉備の地名にもなった英雄であることになるが、吉備においては、温羅伝説と同様、元から吉備の戦士か、吉備に寝返って朝廷と戦った戦士であったがために、吉備の人々が「建部」の地名を残したとする説が見られる。</p>
<p>楯築墳丘墓流鬼神道の細分類</p>	<p>地域</p> <p>倉敷市矢部、庄新町、足守川沿岸に残るシャーマニズム</p>	<p>巫女による道統の自称</p> <p>巫女神道吉備派、霊境秘教吉備神道、巫女霊教神道吉備派</p>	<p>巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先</p> <p>●特徴</p> <p>ほとんどが黒住教、一部は独自に巫女神殿を設置</p> <p>●原始埴輪「特殊器台・特殊壺」の発祥地。巫女らは宮内庁・文化庁に強硬姿勢、敵対的。造山古墳応神天皇陵説、宮内庁陵墓治定虚偽説を主導。楯築を中心とする岡山の墳丘墓の調査は、当時岡山大学にいた春成秀爾の様々な新説を史実であると決定付けた。</p> <p>●ヤマト・日本の「神道」の語を回避して「霊教」や「霊道」の語を好む。</p> <p>●岩崎純一(母方の血統)もこの血統。(楯築巫女家や、黒住教の教祖家系に分家する前の黒住家などの遠縁。)</p>	<p>現在の継承先</p> <p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興</p> <p>・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>		

	倉敷市矢部、庄新町、足守川沿岸に残るシャーマニズム	巫女神道吉備派、霊境秘教吉備神道、巫女霊教神道吉備派	ほとんどが黒住教、一部は独自に巫女神殿を設置 ●「タテツキ(楯築)」が吉備の王の葬送儀式や巫女祭祀の場所・祭具だと初めて唱えた(家伝にそうあった)巫女神道。楯築を中心とする岡山の墳丘墓の調査は、当時岡山大学にいた春成秀爾の様々な新説を史実であると決定付けた。上記神道と同一神道である可能性が高いが、根拠不在により、念のため別記。	岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。		
阿哲・阿新・神郷・神代(こうじろ)・矢神・雨請山・鯉ヶ窪湿原流巫女神道・巫女舞歌道	旧吉備王国全域、特に岡山県全域(発祥地は現岡山県新見市)	主に下掲の女系巫女神道家の巫女(御子、神子)	同上	●「阿哲」は岡山県西北部の旧阿哲郡地域を指す。阿哲郡は2005年に新見市に吸収され、消滅した。新見地域(旧新見市と旧阿哲郡)一帯を「阿新」と呼ぶ。 ●岡山県新見市を中心に、「神代」、「上神代」、「備中神代」などの地名が残るが、同地域の山々および巫女が神々を降ろす媒介者「神の代(しろ)」であったことの名残。神代川流域での巫女舞がかろうじて残る。 ●「雨請山」は、新見市哲西町上神代にある山。雨請の巫女舞がかろうじて残る。 ●恋ヶ窪湿原での歌垣や巫女舞は、右記の通り全滅。	同上 ◆巫女神道の色彩を残してはいるものの、巫女神道道家であった家の多くが曹洞宗の家となっていることが特徴である。 ◆恋ヶ窪湿原での歌垣や巫女神楽については、これも湿原を女性器に見立てた女系の歌垣や巫女神楽が行われていたが、右記の国策のほか、戦後における岡山県の天然記念物指定の解除と商社による買収により、湿原に出向いての巫女神楽は全滅した。現在は、湿原の保護状況に関しては良好で、新見市が管理し、元の姿に復帰している。 ◆その巫女神道・歌道に見られる言葉・文字を岩崎も解読・解釈中。	楯築墳丘墓流鬼神道と姫社系巫女神道と同じ ●近代以降の新宗教教団への参加のほとんどは、上記の国策(巫女禁断令や教派神道政策)による強制配属であり、家業の巫女神道を捨て去って新たな宗教思想に移行したのではない。
	地域	巫女による道統の自称	巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴	現在の継承先		

	<p>新見市西部、哲西町、広島県庄原市東城町地区に残るシャーマニズム</p>	<p>吉備神道矢神流、吉備神道上神代流、吉備兩請神道</p>	<p>黒住教、金光教、一部は独自に巫女神殿を設置 ●「神代(神の依り代)」や「雨乞い(雨請)」の語を冠する流派は、吉備神道といえどもここにしか残っていない。「アマゴヒ」も、「乞う」ではなく「請う」としているところから、シャーマニズムが天への要求型でさえなく天からの待ち受け型であった最古の姿を残しているものと考えられる。 ●神庭・真庭神道と近いが、同流の神道であり、両者共に、たたら製鉄や、スギ・ヒノキの伐採と維持の技術を有する。 ●岩崎純一(父方の血統)もこの血統。ただし、家は曹洞宗。</p>	<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ……IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>
<p>阿哲神道の細分類</p>	<p>新見市西部、哲西町、広島県庄原市東城町地区を中心に、岡山県・広島県の中国山地沿いと山口県の周南市以東の地域に残るシャーマニズム</p>	<p>古神道阿哲教、神仙道阿哲流、仙道阿哲流、仙法阿哲流、仙法阿新流、太古神法阿哲流、阿哲靈道、阿新靈境秘法、哲西神仙道</p>	<p>金光教、神道天行居、神仙道本部、古神道仙法教、一部は独自に巫女神殿を設置 ●ほとんどの吉備の巫女神道が、どちらかと言えば金光教よりは黒住教の神道観に親和するのに対し、神仙道寄りの内陸部の阿哲神道は、金光教との習合がより進んでいる。 ●神道靈学、神道天行居(山口)、宮地神仙道・神仙道本部(高知・香川)、古神道仙法教(大阪)などの顕著な相互影響が見られる。「神仙道」、「仙道」、「仙法」、「太古神法」、「靈道」などを名乗る点にそれが顕著に表れているが、どちらが先に名乗ったかは不明。しかし、吉備が近世末期から近代初期に先に体系化し、名乗った可能性が高い。あるいは、これら日本の神仙道は、同起源の吉備内陸部の古神道が東西南に分派したものか。この阿哲神道は、吉備・山陽沿岸部の他の吉備神道とは異なり、中国山地沿い(現在の中国縦貫道のルート)を通じて山口県や大阪府にまで広がったか。また、清水宗徳出身の香川県にさえ、阿哲神道が見られる。神道天行居の周辺地域には、沿岸部から流入してきた金光教の教会もあり、専ら吉備で発生したシャーマニズム・古神道の西進が目立ち、山口側の古神道系諸教は広島・吉備側にあまり東進・流入していないことが分かる。同じく、兵庫・大阪・香川・高知側から吉備への古神道の流入も、ほとんど見られない。島根県西部から山口県西部にかけて阿哲神道の痕跡がほとんど確認されないのは、津和野藩や長州が国家神道の最強硬派であり(津和野藩は平田派さえも中枢から排除し)、巫女神道、神仙道、修験道に対する弾圧の主導勢力であったためだと考えられる。</p>	<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ……IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>

<p>芥子山(けしごやま)磐座(いわくら)流(たしろ)寄宮(よみや)、句句廻馳(くくくまわし)神社(しんじや)、布施(ふせ)神社(しんじや)流(りゅう)巫女(むすめ)神道(かみまichi)・巫女(むすめ)舞(まひ)歌道(うたみち)</p>	<p>旧吉備王国全域、特に岡山県全域(発祥地は現岡山県岡山市東区大多羅町)</p>	<p>主に下掲の女系巫女神道家の巫女(御子、神子)</p>	<p>血縁・地縁 主に女系女子の巫女 「めかんなぎ(巫)」「斎(いつき)の巫女」「斎女(いつきめ)」「巫女(御子、神子)」「梓巫女(あずさみこ)」「渡り巫女・歩き巫女」「傀儡女(くぐつめ)」 主に女系男子 「おかんなぎ(覡)」「傀儡子・傀儡師(くぐつし、くぐつ、かいらいし)」</p>	<p>上古代～ ●吉備地方に多数の祠や社が建てられる。 17c～18c初頭 ●岡山藩主・池田綱政が藩内の祠や社(とりわけ産土神社)を調査させ、1万以上の祠や社を廃止し、71の寄宮に合祀。さらに、芥子山の句句廻馳神社(くくくまわし)の境内を拡大して社殿を建立し、71社の寄宮から66社を合祀。大多羅寄宮と称した。 1875年 ●大多羅寄宮および句句廻馳神社を同じく芥子山の布施神社に合祀。</p>	<p>●現在、下掲の多くの巫女神道家にとって、事実上の総本山の位置付けにあるのは次の姫社であるが、あくまでも近代神社神道向けの便宜上のもので、元来は、非神社神道の祭祀の場である楯築墳丘墓や阿哲地域、芥子山が総本山である。これらのことは、巫女ら自身には大いに意識されている。 ●下掲の巫女神道家の中には、廃止・合祀されたおよそ1万の祠や社の一部を管理し、または巫女舞の場としていた家がある。神社合祀によって、元の場所にあった磐座の霊験を得る(神々を降ろす)という巫女舞の本義が閉ざされたため、池田藩政には概ね批判的である。 ●さらに、巫女神道を皇室神道、国家神道、神社神道を冒瀆する淫祠邪教と見なして発布された巫女禁断令により、芥子山における巫女神道はほぼ壊滅した。</p>	<p>同上 ◆現在は、芥子山の磐座で巫女舞や神剣演舞を行う巫女は激減しており、これらの秘儀は巫女神道家の家内祭祀として残る。</p>	<p>楯築墳丘墓流鬼神道と姫社系巫女神道に同じ</p>
<p>芥子山磐座流神道の細分類</p>	<p>地域</p> <p>岡山市東区西大寺松崎、大多羅町、目黒町地区に残るシャーマニズム</p>	<p>巫女による道統の自称</p> <p>芥子山磐座流、芥子山神奈備流、備前富士磐座流</p>	<p>巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴</p> <p>黒住教、金光教、一部は独自に巫女神殿を設置 ●芥子山を富士山に見立てる「備前富士」の呼称は、古いものではないと思われる。少なくとも、芥子山を借景とした岡山後樂園の完成した近世以降か。</p>	<p>現在の継承先</p> <p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 …IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>			

<p>姫社(ひめこそ)系巫</p>	<p>旧吉備王国全域、特に岡山県全境、備前・備中・備前・備後</p>	<p>●太古主に下掲の女系巫女神道家の巫女(御子、神子) ◆現在上記のうち、岡山県総社市福公の姫</p>	<p>血縁・地縁 主に女系女子の巫女 「めかんなぎ(巫)」 「斎(いつき)の巫女」 「斎女(いつきめ)」 「巫女(御子、神子)」 「梓巫女(あずさみ)</p>	<p>●上記の通り、日本の神社の発祥地(の一つ)であると考えられる。 ●姫社は、下掲の多くの社家・巫女にとっての事実上の総本山でもある。但</p>	<p>●吉備王国時代の前後から存在していた巫女神道・巫女舞歌道を、近現代の巫女らが便宜的に流派として認識し、呼称したもの。 ●姫社神社は、吉備王国発祥の地と言われ、現地にもそう記されるが、神社の原初形態発祥の地である可能性もある。 ●隣の大字が「秦」であることから、渡来系の秦氏による製鉄伝来(吉備製鉄発祥)の地である可能性もある。 ●巫女神道(巫女教)は、近代における教部省発布の巫女禁断令(1873、神霊の憑依などによって託宣を得る行為の禁止)などの神道行政・国策に巻き込まれ、表向きはほぼ全面的に崩壊し、そのため実際は(致し方なく)か、のちに種々の秘儀化した巫女神道。</p>	<p>◆巫女舞・磐座(いわくら)祈禱・託宣・亀卜・鬼道・神剣演舞(剣舞)・寄絃・鳴弦などの神懸り神事を継承 ◆和歌の側面としては、枕詞・掛詞・対句などによって言霊・神々を呼び寄せる神懸り・憑依の方法を継承。 ◆但し、上記の巫女禁断令および社家の世襲の廃止により、神事の内容は秘伝化して現在に至る。 ◆出自が非ヤマト王権系(朝鮮・百済系帰化渡来人)でなく、吉備王国系(縄文・前期弥生人)で、三韓・新羅と手を結んだため、斎王(斎宮・斎院)に呼ばれることもなく、また現在も、宮中三殿の内掌典や神社神道系祭祀に呼ばれることは少ない。但し、岡山県下(ないし吉備王国の領土)では別で、様々な神社の社家・巫女として活動。 ◆大教宣布運動・教派神道に参加した</p>	<p>●巫女神道を、皇室神道、国家神道、神社神道を冒瀆する「淫祠邪教」と見る国学勢力の台頭と明治新政府の樹立 ●平田復古神道に基づく復古主義・神道原理主義に立ちながら、開国・近代化に伴い原始神道系の巫女を弾圧・排除した、明治政府の神道行政の矛盾による、巫女神道の荒廃 ●神仏判然令(神仏分離令、1868)をはじめとする太政官布告、神祇官事務局達、太政官達による神仏分離策 ●神祇省内への御巫(みかんなぎ)の設置(宮内省の元刀自出身者が中心) ●明治四年太政官布告第二三四・二三五号(神道の中央集権化に伴う世襲神職の廃止と精撰補任) ●巫女禁断令(初回は1873、明治六年一月十五日教部省達第二号として発布、梓巫市子並憑祈禱孤下ケ等ノ所業禁止ノ件、神霊の憑依などによって託宣を得る行為の禁止)と社家の世襲の廃止、および巫女・一般女子への懐柔策として行われた、社寺における女人結界の解除(実際は、一部の巫女らは神懸り神事も世襲も取りやめず、神事を秘伝化させた女系女子共同体を現在でも形成。) ●修験道、陰陽道、世襲社家、庶民の日常の伝統習俗(政府はいずれも「淫祠邪教」とした)の禁止など、神仏判然令や巫女禁断令と連動した他の国策による、修験者、陰陽師、巫女らの共倒れ ●巫女を敗北の宗教者の男性の事としたい敗北</p>
-------------------	------------------------------------	--	---	---	---	---	---

<p>女神道・巫女舞歌道</p>	<p>高、上岡諸島、塩飽諸島(発祥地は現岡山県総社市福谷の姫社)</p>	<p>中福谷の巫社を姫社系巫女舞歌道の総本山とする、総社、倉敷、高梁、瀬戸内、備前の女系社家・巫女(御子、神子)</p>	<p>こ)」 「渡り巫女・歩き巫女」 「傀儡女(くぐつめ)」 主に女系男子 「おかなぎ(親)」 「傀儡子・傀儡師(くぐつし、くぐつ、かいらいし)」</p>	<p>し、その源流は前述の榑築墳丘墓、阿哲地域、芥子山にあり、これらに比べれば、姫社は吉備の巫女らにとって新しい拠点である。</p>	<p>なく、しかし、いつに積極的に秘儀化した。巫女神道は巫女神楽を淫祠邪教として神道史・和歌史上の正統から排除する強硬策は、大寺院や御歌所の設置以前から多くの神道派閥や歌壇の賛同により計画されたもので、男系男子天皇を神道の主宰者として男子の藩閥官僚や神職が神道行政を司る体制を整備するにあたり、巫女神道の存在は大きな瑕疵とされた。大教宣布運動では、巫女の託宣・祭祀への弾圧と廃絶が行われたほか、和歌(とりわけ御所伝授・御歌所派歌道)や俳諧も利用され、男系男子天皇を戴く国家の下に神仏と和歌・俳諧を組織的に統合するため、主に同運動強硬派の男系男子歌人・俳人が多数教導職に任命された。近代の神祇官(宣教使)・神祇省・教部省の項も見よ。</p>	<p>(政府・教部省によって厚遇された)歌人の出身地や、神道・仏教系新宗教教団の立教・立宗地は、岡山県に極端に偏っており、これに伴って歌壇も同県に偏って形成されている。 ◆巫女神道は、近代化の時点ではあらゆる神道派閥から弾圧されたが、すぐに教派神道(神道十三派)を中心に非神社神道に強制配属させられ、巫女や社家の子女らも、そのままそれらの後継教団や新宗教教団に取り込まれたままとなった。一部は、教団の神道教師や事務職にもなった。しかし、戦後になって、多くの巫女や社家の子女がこれら旧教派神道系教団や新宗教教団を離れ、神社本庁傘下の神社をはじめとする神社神道系神社に移るか、いかなる神社や教団にも属さず、家業として秘儀を行うなどしている。</p>	<p>の魔術師(魔女)に転向させたりする形での国外追放と家系根絶 ●大教宣布運動の失敗 ●神仏合同布教禁止令(1875)に基づく神道事務局の設置と大寺院の解散 ●巫女が所属する神道流派が教派神道(神道十三派)のいずれかへ強制配属させられたことに伴う、巫女神道の崩壊 ●教部省の廃止と内務省社寺局の設置、神社局と宗教局への分離、神祇院の設置による宗教行政の混乱 ●第一次世界大戦 ●日中戦争 ●大東亜戦争に向けての戦時体制・国家総動員体制突入のための歌道・文化生活の放棄 ●敗戦 ●新派短歌の隆盛 ●GHQの神道指令(1945)による神祇院・近代社格制度(神社の国家管理)の廃止と宗教法人神社本庁の発足(1946) ●大教宣布運動・教派神道に参加した(政府・教部省によって厚遇された)歌人の出身地や、神道・仏教系新宗教教団の立教・立宗地の、岡山県への極端な偏りに伴う、歌壇の同県への偏り(岡山県の歌道にとっては、利点でもあるが、孤立の原因でもある。) ●平成30年7月豪雨による歌書の移動困難 ●天保暦2033年問題</p>
	<p>地域</p>	<p>巫女による道統の自称</p>	<p>巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴</p>		<p>現在の継承先</p>		
	<p>総社市福谷、秦地区に残るシャーマニズム</p>	<p>姫社神道、姫社秘教神道、吉備姫社靈教</p>	<p>黒住教、金光教、一部は独自に巫女神殿を設置 ●和語の「姫社(ひめこそ)」が漢語の「神社(じんじや)」に先行し、しかも原始神社としての姫社は吉備で生まれたとしている。詳細は別掲の通り。 ●「秦」の地名は、明らかに渡来系秦氏に由来し、秦氏が同地域の製鉄技術を吉備人に指導したと考えられる。</p>		<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>		

姫社神道の細分類	総社市福谷、秦地区に残るシャーマニズム	天女神道、天女霊教吉備教、吉備天女霊道	黒住教、金光教、一部は独自に巫女神殿を設置 ●一部の巫女は神道名や自身の巫女性に「天女」を名乗るが、これはアマテラスではなく、姫社が祀るアカルヒメ(阿加流比売神)のことであり、従って、上記姫社本流と同一神道か。 ●その巫女らは、アメノヒボコ(天之日矛)やアカルヒメが渡来神という設定はともかく、ヤマト王権勢力のほうが、吉備の秦氏(と吉備人との友好的共同体)よりも後発の渡来系・百濟系征服王朝であるとしている。	岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ……IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。			
	総社市槇谷、加賀郡吉備中央町に残るシャーマニズム	吉備神道豪漢教、豪漢神道吉備霊道	黒住教、金光教、一部は独自に巫女神殿を設置 ●同地域に広がる峻険な漢谷・豪漢の名を冠する。乙倉神道も参照。	岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ……IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。			
出雲系巫女神道・巫女舞歌道	古代出雲において行われた巫女神道の系譜を引く巫女神道である。教派神道としての出雲大社教の創始以来、巫女による神事は廃れたが、古代出雲国の南端である岡山県側の新見・真庭地域に、吉備系巫女神道とはやや異なる巫女神道が残存しており、これが古代出雲の巫女神道の名残であると思われる。阿哲・阿新流巫女神道や神庭流巫女神道を見よ。						
備前一宮(吉備津彦神社)神子座(巫女座、御子座)流巫女神道・巫女舞歌道	旧吉備王国全域、特に岡山県全域(発祥地は現岡山県岡山市北区一宮)	主に下掲の女系巫女神道家の巫女(御子、神子)	血縁・地縁 主に女系女子の巫女 「めかんなぎ(巫)」 「斎(いつき)の巫女」 「斎女(いつきめ)」 「巫女(御子、神子)」 「梓巫女(あずさみこ)」 「渡り巫女・歩き巫女」 「傀儡女(くぐつめ)」 主に女系男子 「おかんなぎ(覡)」 「傀儡子・傀儡師(くぐつし、くぐつ、かいらいし)」	6c頃～ ●社伝では推古朝期に創立されたとする。	●『一宮社法』(1342)によれば、12名の巫女(神子)から成る神子座がこの一宮に置かれていた。一宮の神子座の巫女は、宮の祭祀を行うだけでなく、村の行事にも出向いて村民に歌・舞を披露し、村の女子らも一宮に招かれて巫女と共に歌・舞を楽しんだとある。 ●下掲の各巫女神道家にも同様の伝承があり、吉備津彦神社以外の中小規模神社では神子座による巫女神楽が続けられたが、巫女禁断令(1873)によって壊滅的状况に陥ったと報告している。	同上 ◆現在は、吉備津彦神社などの神社神道系神社ではなく、巫女神道家の家内祭祀として残る。吉備津彦神社は現在、神社本庁・岡山県神社庁の管轄であり、旧一宮の神子座とは無関係の男系社家(宮司家、禰宜家、権禰宜家)などから巫女を採用している。	楯築墳丘墓流鬼神道と姫社系巫女神道と同じ
	地域	巫女による道統の自称	巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴	現在の継承先			

備前一宮 神子座神道 の細分類	総社市に残るシャーマニズム		巫女神道吉備派、吉備神子座神道		<p>黒住教、金光教、一部は独自に巫女神殿を設置</p> <p>●吉備津彦神社が最大の庇護者であったが、同神社が神社本庁・岡山県神社庁の傘下に入ってから、完全に袂を分かっており、巫女らは神社の使用人としての巫女業務と巫女神道とを別に営んでいる。</p> <p>●同じく巫女神道に端を発する鳴釜神事は、今でも吉備津神社に残っており、吉備津彦神社が神子座を捨てたのと同対照的であるが、その鳴釜神事でさえ、総社市阿曾地域の巫女と住民による鳴釜神事よりも新しく、近代に改変されたものである。神子座神事は、後者の鳴釜神事に親和・習合して、限定的に残る。</p>	<p>黒住教、金光教がほとんどを吸収し、よく継承。岡山県神社庁および吉備津彦神社は、国家神道・神社神道・神社本庁系の立場から、神子座および吉備楽・吉備舞を忌避し、これらを全く継承せず。現在、吉備楽・吉備舞とは、もっぱら、巫女たちの逃亡先となった黒住教や金光教と、巫女神道の巫女舞を言う。この暗黙の慣習は、本岸本神道の運命によって成立した。</p> <p>わずかな一部分のみを岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興</p>	
乙倉(おとくら)流 巫女神道・巫女舞歌道	旧吉備王国全域、特に岡山県全域	同上	同上	<p>●「乙倉」の家名(のちの苗字)は、岡山県岡山市で発生。全国中、岡山県が最多で80%、奈良県が10%。</p>	<p>●当初の系統:原始巫女神道、楯築墳丘墓流鬼神道、姫社系巫女神道、非ヤマト王権系祭祀、吉備国系祭祀、古墳文明系祭祀、芥子山磐座流</p> <p>●近世までの系統:備前一宮神子座流巫女神楽、伊勢神道、吉田神道、吉川神道、垂加神道、儒家神道、古神道</p> <p>●近代以降の系統(巫女の供給先教団):岡山伯家神道(高浜神事秘法)、教派神道(神道十三派)、とりわけ神宮教、神習教、黒住教、金光教、神道大成教、禊教</p>	<p>同上</p> <p>◆その巫女神道・歌道に見られる言葉・文字を岩崎も解説・解釈中。</p>	<p>同上</p> <p>●近代以降の新宗教教団への参加のほとんどは、上記の国策(巫女禁断令や教派神道政策)による強制配属であり、家業の巫女神道を捨て去って新たな宗教思想に移行したのではない。</p>
	地域		巫女による道統の自称		巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴	現在の継承先	

乙倉神道の細分類	岡山市東区西大寺松崎、大多羅町地区に残るシャーマニズム		吉備巫女秘教神道、乙倉教、乙倉神霊道	<p>黒住教、金光教、一部は独自に巫女神殿を設置</p> <p>●巫女禁断令と共に、陰陽道禁止令や修験道禁止令が発令された際、この流派の巫女らが真っ先に吉備の陰陽師や修験者(特に姫社系豪溪神道の修験者)と結託している。全国の修験者は、主に天台宗か真言宗に強制配属させられたが、吉備北・中部や豪溪に残っていた修験者はこれを拒否している。豪溪寺は真言宗であるが、修験者はここに入らず、独自に修行を続けた。南部の芥子山や(黒住教本部のある)神道山自体は、修験道を極めるような厳しい山では毛頭なく、むしろ巫女らが磐座神事の場所として利用することが多かったが、芥子山が近世以降に「備前富士」と呼ばれ、富士に見立てられるなどする中、吉備人は東国の修験道への知識も持つようになった。乙倉の巫女や吉備の修験者の態度も、遠く扶桑教や実行教(富士の修験道系神道)、御嶽教(御嶽山の修験道系神道)への協力の意志を示したものが。</p>	<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興</p> <p>・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>	
	倉敷市矢部、庄新町に残るシャーマニズム		吉備巫女秘教神道、乙倉教、乙倉神霊道	<p>黒住教、金光教、一部は独自に巫女神殿を設置</p> <p>●新嘗祭・大嘗祭の起源が吉備の巫女祭祀(楯築祭祀)などにあると最初に主張したのは、この流派か。岩崎も最初、この流派の家伝として知った。</p>	<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興</p> <p>・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>	
狩屋(かりや)流巫女神道・巫女舞歌道	旧吉備王国全域、特に岡山県全域	同上	同上	<p>●「狩屋」の家名(のちの苗字)は、吉備地方氏族の「仮の屋」または鷹狩りに関するもの。岡山県倉敷市で発生。全国中、岡山県が最多で90%。</p> <p>●当初の系統:原始巫女神道、楯築墳丘墓流鬼神道、姫社系巫女神道、非ヤマト王権系祭祀、吉備国系祭祀、古墳文明系祭祀</p> <p>●近世までの系統:備前一宮神子座流巫女神楽、伊勢神道、儒家神道、古神道、陰陽道</p> <p>●近代以降の系統(巫女の供給先教団):岡山伯家神道(高浜神事秘法)、教派神道(神道十三派)、とりわけ神宮教、神習教、黒住教、金光教、神道大成教、神道修成派、天社土御門神道</p>	<p>同上</p> <p>◆その巫女神道・歌道に見られる言葉・文字を岩崎も解読・解釈中。</p>	<p>同上</p> <p>●近代以降の新宗教教団への参加のほとんどは、上記の国策(巫女禁断令や教派神道政策)による強制配属であり、家業の巫女神道を捨て去って新たな宗教思想に移行したのではない。</p>
	地域	巫女による道統の自称		巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴	現在の継承先	

狩屋神道の細分類	岡山市東区西大寺松崎地区に残るシャーマニズム		吉備秘教巫女神法	<p>神習教、黒住教、金光教</p> <p>●愛新覚羅慧生の友人が多かった巫女神道であり、天城山心中は、政府による巫女弾圧策に対して狩屋神道の巫女たちが行った自決を模倣したのではないかと子孫の巫女たちは見ている。山口県下関市の愛新覚羅社と同じく、巫女神殿の仮舞台を西向きに立て、当時政府・学習院大学・嵯峨家は天城山心中を都合よくねじ曲げて流布させたと見て、これらへの呪詛の秘儀を今も執り行っている。岩崎も、この心中を台意の上での情死であると見ている。</p>	<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興</p> <p>・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>		
	倉敷市真備地区に残るシャーマニズム		吉備巫女秘教神道、吉備巫女秘教神道、狩屋教	<p>黒住教、金光教、一部は独自に巫女神殿を設置</p> <p>●巫女迫害策で毛野の巫女村がターゲットになった際、御巫神道が政府・神社局への呪詛の秘儀を行い、密かに毛野へ巫女を送り込んでいた。</p> <p>●2018年の水害では、他の巫女神道家に秘伝書を分散移転し、難を逃れた。ヤマトと吉備・毛野の関係が記されている。</p>	<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興</p> <p>・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>		
神社(かんじゃ、じんじゃ、かんこそ、こうこそ)流巫女神道・巫女舞歌道	旧吉備王国全域、特に岡山県全域	同上	同上	<p>●「神社」の家名(のちの苗字)は、神社の古式形態である岡山の「姫社」に後から充てたもの。大伴氏の神社造、神社連、神社忌寸などの子孫により、岡山県総社市・倉敷市で発生。全国中、岡山県が最多で70%、京都府が20%、長野県が5%。</p> <p>●上記の通り、岡山県は原始神社の発祥地(の一つ)であると考えられる。</p>	<p>●当初の系統:原始巫女神道、芥子山磐座流、大中臣氏(麿仙)系祭祀</p> <p>●近世までの系統:備前一宮神子座流巫女神楽、伯家神道、伊勢神道、吉田神道、吉川神道、垂加神道、儒家神道、古神道</p> <p>●近代以降の系統(巫女の供給先教団):岡山伯家神道(高浜神事秘法)、教派神道(神道十三派)、とりわけ神宮教、神習教、黒住教、金光教、神道大成教、禊教</p>	<p>同上</p> <p>◆その巫女神道・歌道に見られる言葉・文字を岩崎も解説・解釈中。</p>	<p>同上</p> <p>●近代以降の新宗教教団への参加のほとんどは、上記の国策(巫女禁断令や教派神道政策)による強制配属であり、家業の巫女神道を捨て去って新たな宗教思想に移行したのではない。</p>
	地域	巫女による道統の自称		巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先	現在の継承先		
	岡山市東区西大寺松崎地区、目黒町に残るシャーマニズム	巫女教吉備神秘伝、吉備神道巫女呪法		<p>神習教、黒住教、金光教、神道大成教</p> <p>●巫女をしばしば「巫覡(ふげき)」と呼んでいる。</p>	<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興</p> <p>・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>		

<p>神社神道の細分類</p>	<p>岡山市北区惣爪、加茂地区に残るシャーマニズム</p>		<p>巫女教吉備神秘伝、吉備神道巫女呪法、神道本教、吉備神社(かんじゃ)本教</p>	<p>神習教、黒住教、金光教、神道大成教 ●「神道本教」や「吉備神社(かんじゃ)本教」を名乗ることが特徴。これは、京都府神社会が神社本庁・京都府神社庁に対抗して「神道本教」を名乗るなど、神社神道界で混乱があった時期に、巫女神道としての神社(かんじゃ)神道を神社(じんじゃ)神道と誤解されることを防いだ措置と見られる。</p>	<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ……IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>		
<p>神庭(かんば)・真庭(まにわ)流巫女神道・巫女舞歌道</p>	<p>旧吉備王国全域、特に岡山県全域</p>	<p>同上</p>	<p>同上</p>	<p>●「神庭」の家名(のちの苗字)は、アマテラスに追放されたスサノオノミコトが行き着いた安らかな庭、ないし大社の神々の鎮座地の意。出雲で発生。全国中、島根県が最多で40%、鳥取県が30%、岡山県が20%。 ●「真庭」の家名(のちの苗字)は、出雲と群馬で別個に発祥。出雲出自の「真庭」は、上記と同様、「スサノオが行き着いた本当の、真心の楽園」の意。全国中、島根県が最多で40%、群馬県が30%。岡山県真庭市は、古代出雲と古代吉備の衝突・緩衝地帯で、出雲優位だった時期に、現在の岡山県側に地名として残った。</p>	<p>●当初の系統: 原始巫女神道、非ヤマト王権系祭祀、出雲族系祭祀 ●近世までの系統: 出雲神道 ●近代以降の系統(巫女の供給先教団): 岡山伯家神道(高浜神事秘法)、教派神道(神道十三派)、とりわけ出雲大社教、出雲教(大社教と異なり神道事務局系)、禊教 ●前述の阿哲台のドリーネやウバーレは、真庭市まで広がっており、阿新地域と同様、これらを女性器に見立てた巫女祭祀が行われている。但し、やはりこれは吉備王国側のもので、スサノオ・出雲氏族系の祭祀ではないと推定される。</p>	<p>同上 ◆岡山に残るものの、元は出雲の巫女神道の系譜。我が国初の和歌とされる「八重垣」の歌を元にした秘伝の巫女舞を舞う。 ◆その巫女神道・歌道に見られる言葉・文字を岩崎も解説・解釈中。</p>	<p>同上 ●近代以降の新宗教教団への参加のほとんどは、上記の国策(巫女禁断令や教派神道政策)による強制配属であり、家業の巫女神道を捨て去って新たな宗教思想に移行したのではない。</p>
<p>神庭・真庭神道の細分類</p>	<p>地域</p>	<p>巫女による道統の自称</p>	<p>巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴</p>	<p>現在の継承先</p>			
<p>真庭市に残るシャーマニズム</p>	<p>吉備巫女秘教神道</p>	<p>出雲大社教、出雲教 ●出雲巫女神道との習合。近代の祭神論争では、あからさまに出雲側に加勢したが、その出雲大社・千家家が出雲の巫女らを出雲神道から排除して以降は(教派神道としての出雲大社教の創始)、男系出雲神道に対する出雲・吉備巫女連合として機能。 ●八重垣神社(佐久佐神社時代)の社家の巫女らが岡山県側、特に真庭市に残っており、出雲神道と直結する神道である。 ●阿哲神道と近いが、同流の神道であり、両者共に、たたら製鉄や、スギ・ヒノキの伐採と維持の高度な技術を有する。</p>	<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ……IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>				

	岡山県真庭市神庭地区に残るシャーマニズム		吉備巫女秘教神道、神庭鬼神道、箕作神道	出雲大社教、出雲教、黒住教 ●「神庭」と「真庭」の地名が重なる一帯の巫女神道。巫女らは神庭鬼神道とも呼ぶが、「神庭の滝」近くの「鬼の穴」とも関係か。 ●「箕作神道」を名乗る巫女がおり、美作を拠点とした華族・箕作家と関係か。ただし、一族は学者を輩出したものの、神道家・宗教家は出ていない。	岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。	
岸本流巫女神道・巫女舞歌道	旧吉備王国全域、特に岡山県全域	同上 琉球・沖縄のノロ・ユタ・カミンチュ	同上 琉球・沖縄のノロ・ユタ・カミンチュ	●「岸本」の家名(のちの苗字)は、天智天皇朝期の藤原氏の誕生(中臣氏からの分家)以来、「藤原」の家名と共に岡山県に集中的に流入したもの。また、琉球王国の末裔にも多い。全国中、岡山県が最多で40%、兵庫県が30%、沖縄県が20%。 ●当初の系統:原始巫女神道、楯築墳丘墓流鬼神道、姫社系巫女神道、非ヤマト王権系祭祀、吉備国系祭祀、古墳文明系祭祀 ●近世までの系統:備前一宮神子座流巫女神楽、民俗神道、雲伝神道、自然真言道(安藤昌益の著による)、古神道 ●近代以降の系統(巫女の供給先教団):岡山伯家神道(高浜神事秘法)、黒住教、金光教、ほんぶしん、神道大成教、神道霊学、神道天行居、琉球系シャーマニズム・自然信仰	同上 ◆琉球・沖縄のノロ・ユタ・カミンチュのシャーマニズム・呪歌の継承が見られる。 ◆その巫女神道・歌道に見られる言葉・文字を岩崎も解説・解釈中。	同上 ●近代以降の新宗教教団への参加のほとんどは、上記の国策(巫女禁断令や教派神道政策)による強制配属であり、家業の巫女神道を捨て去って新たな宗教思想に移行したのではない。
	地域		巫女による道統の自称	巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴	現在の継承先	
	岡山市東区西大寺松崎地区に残るシャーマニズム		巫女禁断神法吉備教、岸本教	黒住教、金光教、ほんぶしん、一部は独自に巫女神殿を設置 ●『日本巫女史』などに記載された女性器・糞尿・生理などを利用した祭祀の継承・残存を、岩崎に最初に報告したのは、この流派である。	岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。	
	瀬戸内市牛窓地区に残るシャーマニズム		巫女禁断神法吉備教、岸本教	黒住教、金光教、ほんぶしん、一部は独自に巫女神殿を設置 ●戦後政府による沖縄県の扱いに対し、とりわけ強硬な反発姿勢を示す流派。岸本教主導による琉球独立を唱える巫女もいる。ただし、2019年の首里城焼失の際に文化庁長官が涙し、支援を表明したことを受けて、政府への呪いの秘儀は一旦取りやめている。	岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。	

岸本神道の細分類	岡山市北区下伊福に残るシャーマニズム	<p style="text-align: center;">巫女禁断神法吉備教、岸本教</p>	<p>黒住教、金光教、ほんぶしん、一部は独自に巫女神殿を設置</p> <p>●吉備楽・吉備舞を創始した巫女神道である。これを主導した男系雅楽家・岸本芳秀らも、同地区、同一族の男系家系の出である。</p> <p>●宗教学者の岸本能武太・英夫父子も、この血統と思われる。ただし、英夫創設の國學院大學日本文化研究所に対し、岸本巫女神道は、かなり距離を置いている。</p>	<p>黒住教、金光教がほとんどを吸収し、よく継承。岡山県神社庁は、国家神道・神社神道・神社本庁系の立場から、吉備楽・吉備舞を忌避し、これらを全く継承せず。現在、吉備楽・吉備舞とは、もっぱら、巫女たちの逃亡先となった黒住教や金光教と、巫女神道の巫女舞を言う。この暗黙の慣習は、本岸本神道の運命によって成立した。</p> <p>わずかな一部分のみを岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興</p>
	沖縄県に残る吉備系シャーマニズム	<p style="text-align: center;">巫女禁断神法琉球教、琉球岸本教、琉球吉備教、吉備琉球教</p>	<p>黒住教、金光教、神道大成教、一部は独自に巫女神殿を設置</p> <p>●ヤマト王権による『記紀』は、琉球神話や吉備神話を題材にした、日本列島の先史時代の捏造であるという説を強硬に主張している。とりわけ、「久高島の彼方にある理想郷のニライカナイから、琉球開闢の創世神アマミキヨが琉球本島沿岸のヤハラヅカサに降り立った」とする琉球神話を、ヤマトが取り込んで改変し(アマテラスやアマミキヨの転用とする)、ヤマトの方が列島の先占・正統勢力であるかのように偽ったと指摘している。</p> <p>●吉備と長らく協力・習合した岸本神道に限らず、琉球シャーマニズムの全てが、1429年の琉球王国建国とは無関係に、太古の昔に発祥しているが、これらをよく取り入れたのも琉球王国で、シャーマニズムを蔑視したヤマト王権や近代政府とは対照的である。</p> <p>●観光名所の斎場御嶽(セーファーウタキ)では男子禁制が解かれているが、男子禁制の御嶽も残っており、岸本神道のシャーマニズムが一部に残る。ただし、数十人のシャーマンが輪を成して舞踊したり、神殿を通過して列を成して森へ入るなどの、大規模な儀式は廃れている。</p> <p>●イラプー(エラブウミヘビ)を祭ったり食したりする風習を現在も残す。</p>	<p>現地沖縄のシャーマン(ノロ、ユタ、カミンチュの生き残り)が継承。残りは岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興</p> <p>・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>

<p>日下・草加 (くさか)流 巫女神道・ 巫女舞歌 道</p>	<p>旧吉備 王国全 域、特 に岡山 県全域</p>	<p>同上</p>	<p>同上</p>	<p>●「日下」の家名(のちの 苗字)は、岡山県備前市で 発生。太陽信仰の名残。 安倍氏、徳島藩にも流入。 全国中、岡山県が最多で 60%、徳島県と秋田県が 各10%。 ●「草加」も岡山県備前市 で発生。主に和気郡に分 布。全国中、岡山県が最 多で70%。</p>	<p>●当初の系統:原始巫女神道、榑築墳丘墓流鬼神道、 姫社系巫女神道、非ヤマト王権系祭祀、吉備国系祭 祀、和気氏系祭祀、古墳文明系祭祀 ●近世までの系統:備前一宮神子座流巫女神楽、皇室 神道、伯家神道、伊勢神道、いざなぎ流、法華神道、陰 陽道 ●近代以降の系統(巫女の供給先教団):岡山伯家神 道(高浜神事秘法)、神社神道、国家神道、神道大教 院、神道大教、黒住教、金光教、神道大成教、天社土 御門神道、神道霊学、神道天行居</p>	<p>同上 ◆非ヤマト系の出自といえども、当初よ り中央政権に近く、皇室神道から神社神 道・国家神道に通じる家系である。にも かかわらず、女系巫女の家であることを もって、巫女禁断令や天社神道禁止令 の影響を大きく受け、反動で極端に秘伝 化し、霊学寄りの教団に巫女が多数入 り込んでいる。 ◆別掲の息長氏の末裔、斎皇家家臣の 家系にも、「日下」姓が多い。 ◆その巫女神道・歌道に見られる言葉・ 文字を岩崎も解説・解釈中。</p>	<p>同上 ●近代以降の新宗教教団への参加のほとんど は、上記の国策(巫女禁断令や教派神道政策)に よる強制配属であり、家業の巫女神道を捨て去っ て新たな宗教思想に移行したのではない。</p>
<p>日下・草加 神道の細 分類</p>	<p>地域</p>	<p>巫女による道統の自称</p>	<p>巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴</p>	<p>現在の継承先</p>			
<p>岡山市東区西大寺松 崎地区に残るシャーマニズム</p>	<p>吉備神道霊学、日下教</p>	<p>神習教、黒住教、金光教、神道大成教、神道天行居 ●政府・国家神道に近かったが、これらの勢力が天皇 を万教の絶対者(ヤハウェ、ゴッド、イエス・キリスト、 アツラーなど)を専有すると宣言してからは、巫女らが 憤怒して離脱。ヤマト王権、特に近代天皇・政府を崇 る呪術を行う。一部はあからさまに反ユダヤ主義の神道 天行居に参加。(目的はユダヤ人差別ではなく、ヤハ ウェと一体化した天皇への呪詛。)自ら吉備巫女神道に 前戻った、勇壮な悲運の道統である。</p>	<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉 備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら 教派神道に所属している巫女が多い。</p>				
<p>総社市福谷、秦地区 に残るシャーマニズム</p>	<p>吉備神道霊学、草加教</p>	<p>神習教、黒住教、金光教、神道大成教、神道天行居 ●総社においては「草加」教と綴る巫女が多いが、「日 下」教と同源と考えられる。地域的に姫社神道と関係が あるか。</p>	<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉 備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら 教派神道に所属している巫女が多い。</p>				

<p>国定(くにさだ)流巫女神道・巫女舞歌道</p>	<p>旧吉備王国全域、特に岡山県全域</p>	<p>同上</p>	<p>同上</p>	<p>●「国定」の家名(のちの苗字)は、吉備国の安定を願ったもの。岡山県岡山市で発生。全国中、岡山県が最多で40%、次いで群馬、栃木、岐阜。</p>	<p>●当初の系統:原始巫女神道、楯築墳丘墓流鬼神道、姫社系巫女神道、非ヤマト王権系祭祀、吉備国系祭祀、古墳文明系祭祀 ●近世までの系統:備前一宮神子座流巫女神楽、伊勢神道、吉田神道、吉川神道、垂加神道、儒家神道、古神道 ●近代以降の系統(巫女の供給先教団):岡山伯家神道(高浜神事秘法)、教派神道(神道十三派)、とりわけ神宮教、神習教、黒住教、金光教、神道大成教、禊教</p>	<p>同上 ◆その巫女神道・歌道に見られる言葉・文字を岩崎も解説・解釈中。</p>	<p>同上 ●近代以降の新宗教教団への参加のほとんどは、上記の国策(巫女禁断令や教派神道政策)による強制配属であり、家業の巫女神道を捨て去って新たな宗教思想に移行したのではない。</p>
<p>国定神道の細分類</p>	<p>地域</p>	<p>巫女による道統の自称</p>	<p>巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴</p>	<p>現在の継承先</p>			
<p>岡山市東区西大寺松崎地区に残るシャーマニズム</p>	<p>巫女教吉備神秘伝、吉備神道巫女呪法</p>	<p>神習教、黒住教、金光教、神道大成教</p>	<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ……IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>				
<p>兵庫県赤穂市福浦に残るシャーマニズム</p>	<p>巫女教吉備神秘伝、吉備神道巫女呪法、国定教</p>	<p>神習教、黒住教、金光教、神道大成教 ●同神道は現在の兵庫県内に残るが、その巫女らは「吉備」の神道を名乗る。同地区には備前福河駅もあり、同地区が吉備王国や備前国の版図であったことを物語る。</p>	<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ……IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>				
<p>黒明(くろあけ、くろみょう)流巫女神道・巫女舞歌道</p>	<p>旧吉備王国全域、特に岡山県全域</p>	<p>同上</p>	<p>同上</p>	<p>●「黒明」の家名(のちの苗字)は、吉備地方の黒土を含む河川が「くろくとめくろめく」流れ、太陽がこれに明るく照るの意。太陽信仰の名残。黒島貝塚や黄島貝塚などの色彩語による貝塚表現とも関連がある。岡山県倉敷市で発生。全国中、岡山県が最多で90%。</p>	<p>●当初の系統:原始巫女神道、楯築墳丘墓流鬼神道、姫社系巫女神道、非ヤマト王権系祭祀、吉備国系祭祀、古墳文明系祭祀、蘇我氏(崇仏)系祭祀、芥子山磐座流 ●近世までの系統:備前一宮神子座流巫女神楽、両部神道、山王一実神道、三輪流神道、古神道、修験道 ●近代以降の系統(巫女の供給先教団):岡山伯家神道(高浜神事秘法)、黒住教、金光教、神道大成教、天社土御門神道、神道霊学、神道天行居</p>	<p>同上 ◆その巫女神道・歌道に見られる言葉・文字を岩崎も解説・解釈中。</p>	<p>同上 ●近代以降の新宗教教団への参加のほとんどは、上記の国策(巫女禁断令や教派神道政策)による強制配属であり、家業の巫女神道を捨て去って新たな宗教思想に移行したのではない。</p>
<p>地域</p>	<p>巫女による道統の自称</p>	<p>巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴</p>	<p>現在の継承先</p>				

黒明神道の細分類	岡山市東区西大寺松崎地区から瀬戸内市牛窓町にかけて残るシャーマニズム	<p>巫女教吉備神秘伝、吉備神道巫女呪法</p> <p>神習教、黒住教、金光教、神道大成教 ●「倭姫命＝卑弥呼」説と同時に、邪馬台国吉備説を唱えている。宇治山田陵墓参考地も倭姫命陵でなく、吉備の墳丘墓のいずれかであるとしている。 ●その母で垂仁天皇の皇后・日葉酢媛命の薨去の際、古来の殉死による葬儀を悪習と難じていた天皇に、野見宿禰が殉死の代わりに埴輪を埋葬するよう進言したとする伝説が、ヤマト側(『日本書紀』)にある。(漢風諺号「垂仁」の由来。)この故事と「倭姫命＝卑弥呼」説、邪馬台国吉備説の全てが、国定の巫女らから楯築の巫女らにも伝えられており、楯築の巫女らがヤマト王権圏内における埴輪の用途の変遷を察知し、埴輪吉備起源説を唱える契機となった。ヤマトでは、埴輪が殉死の防止としての代替埋葬、大王・有力者の権勢誇示としての装飾などに用いられた一方、吉備では殉死葬儀そのものがあまり見られず、原始埴輪(特殊器台・特殊壺)も威容が主目的ではない。 ●天保暦2033年問題をめぐって、吉備の巫女神道諸派の巫女頭を集め、協議・対策を先導しているのは、この流派である。 ●現在、巫女アニメ文化の高まりに伴い、3月5日は巫女の日とされているが、同神道は逆にこれを利用し、同日に古式の秘儀を執り行っている。表向きはグレゴリオ暦・太陽暦を批判するものだが、内実は現政府・宮内庁・神社本庁などへの呪詛の儀式である。</p>	<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>
	岡山市北区川入地区に残るシャーマニズム	<p>法華巫女神道黒明流</p> <p>黒住教、金光教、一部は独自に巫女神殿を設置 ●法華宗との習合が見られ、田中智學の国柱会や三男・里見岸雄の日本国体学に近いが、日蓮主義の男権思想と袂を分ち、法華経を巫女神道と習合させた一種独特のシャーマニズムを創り上げた。 ●草創期の創価学会に対しては、好意的に見ていたが、現在は学会に賛意を示す巫女は存在していない。西田無学・霊友会系教団にも、当初は好意的だったが、現状は異なる。</p>	<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>

高祖(こうそ、たかそ、たかす)流巫女神道・巫女舞歌道	旧吉備王国全域、特に岡山県全域	同上	同上	<p>●「高祖」の家名(のちの苗字)は、家祖である神々を崇めたもの。佐賀県(筑紫国)で発生。次に岡山県(吉備国)で発生。全国中、佐賀県が最多で60%、岡山県が30%、広島県が5%。</p>	<p>●当初の系統:原始巫女神道、楯築墳丘墓流鬼神道、姫社系巫女神道、非ヤマト王権系祭祀、吉備国系祭祀、古墳文明系祭祀 ●近世までの系統:備前一宮神子座流巫女神楽、伊勢神道、儒家神道、古神道 ●近代以降の系統(巫女の供給先教団):岡山伯家神道(高浜神事秘法)、伊勢神道、教派神道(神道十三派)、とりわけ神宮教、神習教、黒住教、金光教、神道大成教、神道修成派、天社土御門神道</p>	<p>同上 ◆朝鮮半島のシャーマニズムを司るシャーマンである巫堂(ムーダン)と、その伝承内容に共通点が多く、交流している。「高祖」の家名も、朝鮮、特に新羅系由来のものか。 ◆その巫女神道・歌道に見られる言葉・文字を岩崎も解説・解釈中。</p>	<p>同上 ●近代以降の新宗教教団への参加のほとんどは、上記の国策(巫女禁断令や教派神道政策)による強制配属であり、家業の巫女神道を捨て去って新たな宗教思想に移行したのではない。</p>
高祖神道の細分類	地域	巫女による道統の自称		巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴		現在の継承先	
	岡山市東区西大寺松崎地区、目黒町に残るシャーマニズム	巫女教吉備神秘伝、吉備神道巫女呪法、高祖神秘道、天祖神秘道		<p>神習教、黒住教、金光教、神道大成教 ●「天祖」とも名乗るが、関東一円に広がる神社神道・本庁系の天祖神社とは無関係か。高祖神道の天祖とは、多神を束ねる宇宙神を言い、天照大神ではない。 ●吉備の巫女神道に対する弾圧史を首都圏の大学や学校教育が取り上げるよう強くはたらきかけるべきだと、他の流派に向かって主張したのが、高祖神道である。当初、東京大学史料編纂所教授の山本博文氏(津山市出身で、中学・高校の教科書も執筆)などにはたらきかけようとしたが、叶わなかった。この試みは、岩崎純一(巫女神道吉備派側と教育者側の双方の立場を兼ねる)に全面的に受け継がれている。</p>		<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>	
	香川県東かがわ市に残るシャーマニズム	巫女教吉備神秘伝、吉備神道巫女呪法、高祖神秘道、天祖神秘道		<p>神習教、黒住教、金光教、神道大成教 ●吉備の巫女神道を名乗っている。 ●神儒習合や心霊学の傾向を示し、土井晩翠らの日本心霊科学協会設立にあたっては、高祖神道の巫女らも協力している。</p>		<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>	
道満(どうまん)流巫女神道・巫女舞歌道	旧吉備王国全域、特に岡山県全域	同上	同上	<p>●「道満」の家名(のちの苗字)は、「田間(多摩と同源)」の岡山弁訛り。岡山県赤磐市で発生し、笠岡市を中心に定着。または、その逆方向。全国中、岡山県が最多で40%。滋賀県と兵庫県が各20%。</p>	<p>●当初の系統:原始巫女神道、楯築墳丘墓流鬼神道、姫社系巫女神道、非ヤマト王権系祭祀、吉備国系祭祀、古墳文明系祭祀 ●近世までの系統:備前一宮神子座流巫女神楽、両部神道、山王一実神道、三輪流神道、古神道、修験道 ●近代以降の系統(巫女の供給先教団):岡山伯家神道(高浜神事秘法)、黒住教、金光教、天理教、ほんみち、ほんぶしん、神道大成教、大本、天社土御門神道、神道霊学、神道天行居</p>	<p>同上 ◆岡山県に残る巫女神道のうち、最も創唱宗教(幕末三大新宗教)との関係が深い。神道色・仏教色も、最も薄く、いわばキリスト教的・博愛的巫女神道共同体の設立を掲げる。 ◆その巫女神道・歌道に見られる言葉・文字を岩崎も解説・解釈中。</p>	<p>同上 ●近代以降の新宗教教団への参加のほとんどは、上記の国策(巫女禁断令や教派神道政策)による強制配属であり、家業の巫女神道を捨て去って新たな宗教思想に移行したのではない。</p>

		地域	巫女による道統の自称	巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴	現在の継承先
道満神道の細分類		岡山市東区西大寺松崎、大多羅町地区に残るシャーマニズム	吉備巫女秘教神道、道満神霊道、道満神秘主義、道満神智学	黒住教、金光教、一部は独自に巫女神殿を設置 ●巫女弾圧策を受けて、キリスト教神秘主義、カバラ、セレマ神秘主義とそれらの各教団と早期に結託したことから、西洋魔術、性魔術、ネクロマンシー、女性の集団ヒステリー、精神病理学にまつわる秘儀秘伝を蓄積している。吉備の巫女神道も率先して体系化し、神事一覧を作成している。岩崎がシャーマニズムにおける憑依・脱魂現象と現代精神病理学の疾病分類との関連を研究する上で、詳しい情報を岩崎に報告している流派の筆頭である。意図的に統合失調症やカブグラ症候群に自身を陥らせたりそこから復帰させたりする技術を有し、実際に儀式中にそれが観測される。	岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。
	藤原流巫女神道・巫女舞歌道	旧吉備王国全域、特に岡山県全域	同上	●「藤原」の家名(のちの苗字)は、全国の藤原氏に由来。岡山県と兵庫県が最多で各30%、島根県と秋田県と岩手県が各10%。藤氏長者が五撰家(九条、二条、一条、近衛、鷹司)に分かれ、「藤原」を常用する機会が減少して以降、「藤原」姓のほとんどが岡山と兵庫になだれ込んでいるが、これらの姓を持つ県民全員が藤原氏の子孫とは到底考えがたいため、仮冒も多かったと推定される。 ●当初の系統:原始巫女神道、芥子山磐座流、物部氏・斎部氏・大中臣氏(廢仏)系祭祀 ●近世までの系統:備前一宮神子座流巫女神楽、伊勢神道、吉田神道、吉川神道、垂加神道、儒家神道、古神道 ●近代以降の系統(巫女の供給先教団):岡山伯家神道(高浜神事秘法)、教派神道(神道十三派)、とりわけ神宮教、神習教、黒住教、金光教、神道大成教、禊教、天社土御門神道、神道霊学、神道天行居	同上 ◆その巫女神道・歌道に見られる言葉・文字を岩崎も解説・解釈中。
	地域	巫女による道統の自称	巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴	現在の継承先	
	岡山市東区西大寺松崎、大多羅町、広谷地区に残るシャーマニズム	吉備巫女秘教神道、吉備秘教巫女神法	黒住教、金光教、一部は独自に巫女神殿を設置 ●この藤原巫女神道も、女系継承で、少なくとも藤原氏の直系子孫ではないと考えられるが、藤原氏の始祖家系である中臣・大中臣家とは女系でつながる。	岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。	

<p>藤原神道の細分類</p>	<p>浅口市鴨方町地区に残るシャーマニズム</p>		<p>吉備巫女秘教神道、吉備秘教巫女神法、藤原神道鴨方</p>	<p>金光教 ●ほとんどの吉備の巫女神道が、どちらかと言えば金光教よりは黒住教の神道観に親和するのに対し、鴨方の巫女神道は、金光教本部に近いこともあって、金光教に融合し、巫女の所属先も同教が多い。 ●吉備の巫女神道は、県内の暴力団情勢に口を出すことはほとんどないが、この神道はそうではなく、2015年以降の山口組分裂騒動についても、あからさまに神戸山口組派の立場に立っている。県内の指定暴力団浅野組が近いことも関係か。 ●同和問題にも敏感な流派で、『部落地名総鑑』の内容を誤りだらけとしている。2014年に広島法務局職員が、同書について「利用は問題だが、配布は問題でない」旨の発言をした際には、広島に巫女を送り込んで、広島法務局に呪詛をかける儀式を行っている。</p>	<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ……IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>	
<p>正宗(まさむね、しょうしゅう)流巫女神道・巫女舞歌道</p>	<p>旧吉備王国全域、特に岡山県全域</p>	<p>同上</p>	<p>同上</p>	<p>●「正宗」の家名(のちの苗字)は、備後国調月郡の鍛冶家の家柄。その後は、備前市を中心に定着し、播磨に流入。広島県からはほとんど消滅した。神仏習合系の岡山の巫女神道が「しょうしゅう」とも称していることから、日蓮正宗などの「正しき宗旨・宗派」の意とも関連するか。全国中、岡山県が最多で40%。 ●当初の系統:原始巫女神道、楯築墳丘墓流鬼神道、姫社系巫女神道、非ヤマト王権系祭祀、吉備国系祭祀、古墳文明系祭祀、蘇我氏(崇仏)系祭祀 ●近世までの系統:備前一宮神子座流巫女神楽、伊勢神道、吉田神道、吉川神道、垂加神道、儒家神道、古神道、両部神道、山王一実神道 ●近代以降の系統(巫女の供給先教団):岡山伯家神道(高浜神事秘法)、教派神道(神道十三派)、とりわけ神宮教、神習教、黒住教、金光教、天理教、ほんみち、ほんぶしん、神道大成教、禊教</p>	<p>同上 ◆別掲の正宗文庫を創設した正宗家とも遠縁。 ◆その巫女神道・歌道に見られる言葉・文字を岩崎も解説・解釈中。</p>	<p>同上 ●近代以降の新宗教教団への参加のほとんどは、上記の国策(巫女禁断令や教派神道政策)による強制配属であり、家業の巫女神道を捨て去って新たな宗教思想に移行したのではない。</p>
	<p>地域</p>	<p>巫女による道統の自称</p>	<p>巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴</p>	<p>現在の継承先</p>		

<p>正宗神道の細分類</p>	<p>備前市穂浪地区に残るシャーマニズム</p>		<p>吉備巫女秘教神道、靈教正宗教</p>	<p>黒住教、金光教、ほんみち、ほんぶしん、一部は独自に巫女神殿を設置 ●男系の正宗本家は、国文学者・歌人の正宗敦夫などを輩出。現在、正宗文庫が知られる。 ●巫女らも歌道をよくし、吉備の巫女神道の中でも古今伝授の最深奥義を授けられている流派である。そのため、現代の斎王代・斎宮代について、「茶道中心主義によって三千家の独断で選ばれており、和歌を詠めない女性に斎王（斎宮、斎院）の代わりが務まるわけがない」と揶揄している。岩崎としても、元より斎王は巫女であり、言葉の儀式（託宣）を担う以上、和歌（特に古代歌謡・歌垣に近い万葉集）を嗜まない子女は、斎王代・斎宮代になるべきでないと考え、巫女らの意見に賛同している。</p>	<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ……IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>		
<p>御巫(みかなぎ、みかんなぎ、みかんこ)流巫女神道・巫女舞歌道</p>	<p>旧吉備王国全域、特に岡山県全域</p>	<p>同上</p>	<p>同上</p>	<p>●「御巫」の家名(のちの苗字)は、伊勢神宮社家(石部氏)の分家。平家没落時に群馬県に逃避か。全国中、群馬県が最多で60%。明治の神祇省の「御巫」はこれと無関係の職名だが、御巫家も御巫の職に就いた。ヤマト・吉備と並ぶ古代三大古墳文化圏の毛野と関係か。吉備・毛野の巫女連合がヤマトの斎王神道に対抗した可能性がある。</p>	<p>●当初の系統:原始巫女神道、斎王(斎宮、斎院)系神道、伊勢内宮(荒木田)神道、伊勢神道、蘇我氏(崇仏)系祭祀 ●近世までの系統:伊勢内宮(荒木田)神道、伊勢神道、吉田神道、吉川神道、垂加神道、儒家神道、古神道、両部神道、山王一実神道 ●近代以降の系統(巫女の供給先教団):岡山伯家神道(高浜神事秘法)、教派神道(神道十三派)、とりわけ神道大教、神宮教、神習教、黒住教、金光教、神道大教、禊教、実行教、御嶽教</p>	<p>同上 ◆岡山県における御巫流神道の社家も、伊勢神道社家の末裔か。 ◆山岳地帯に逃れるにつれ、本地垂迹説の両部神道、山王一実神道に立場を変え、山岳信仰系の実行教、御嶽教の巫女を輩出していることが特徴。 ◆その巫女神道・歌道に見られる言葉・文字を岩崎も解読・解釈中。</p>	<p>同上 ●近代以降の新宗教教団への参加のほとんどは、上記の国策(巫女禁断令や教派神道政策)による強制配属であり、家業の巫女神道を捨て去って新たな宗教思想に移行したのではない。</p>
<p>御巫神道の細分類</p>	<p>地域</p> <p>倉敷市真備地区に残るシャーマニズム</p>	<p>巫女による道統の自称</p> <p>吉備巫女秘教神道、吉備巫女秘教神道、御巫教</p>	<p>巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴</p> <p>黒住教、金光教、一部は独自に巫女神殿を設置 ●巫女迫害策で毛野の巫女村がターゲットになった際、御巫神道が政府・神社局への呪詛の秘儀を行い、密かに毛野へ巫女を送り込んでみいる。 ●2018年の水害では、他の巫女神道家に秘伝書を分散移転し、難を逃れた。ヤマトと吉備・毛野の関係が記されている。</p>	<p>現在の継承先</p> <p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ……IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>			

<p>虫明(むしあけ)流巫女神道・巫女舞歌道</p>	<p>旧吉備王国全域、特に岡山県全域</p>	<p>同上</p>	<p>同上</p>	<p>●「虫明」の家名(のちの苗字)は、植物のカラムシ、またはカラムシに寄り集まるチョウ、ガ、カミキリムシが日に当たり成長・活動する意。太陽信仰の名残。最初、備前国村久郡虫明村として地名となった後、苗字となる。全国中、岡山県が最多で70%。</p>	<p>●当初の系統:原始巫女神道、楯築墳丘墓流鬼神道、姫社系巫女神道、非ヤマト王権系祭祀、吉備国系祭祀、古墳文明系祭祀 ●近世までの系統:備前一宮神子座流巫女神楽、伊勢神道、吉田神道、吉川神道、垂加神道、儒家神道、古神道 ●近代以降の系統(巫女の供給先教団):岡山伯家神道(高浜神事秘法)、教派神道(神道十三派)、とりわけ神宮教、神習教、黒住教、金光教、神道大成教、禊教、ほんぶしん</p>	<p>同上 ◆その巫女神道・歌道に見られる言葉・文字を岩崎も解説・解釈中。</p>	<p>同上 ●近代以降の新宗教教団への参加のほとんどは、上記の国策(巫女禁断令や教派神道政策)による強制配属であり、家業の巫女神道を捨て去って新たな宗教思想に移行したのではない。</p>
<p>虫明神道の細分類</p>	<p>地域</p>	<p>巫女による道統の自称</p>	<p>巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴</p>	<p>現在の継承先</p>			
<p>瀬戸内市邑久町虫明地区に残るシャーマニズム</p>	<p>吉備巫女秘教神道、霊教虫明教</p>	<p>黒住教、金光教、ほんぶしん、一部は独自に巫女神殿を設置</p>	<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>				
<p>瀬戸内市長船町福岡地区に残るシャーマニズム</p>	<p>吉備巫女秘教神道、霊教虫明教</p>	<p>黒住教、金光教、ほんぶしん、一部は独自に巫女神殿を設置 ●福岡地区は、沿岸部の虫明地区からは離れているが、現地の巫女らが虫明教を名乗っているため、ここに含める。 ●巫女らは、福岡(県・市)の由来は長船町福岡に由来するという説を提唱している。これは現在、主流の説の一つである。</p>	<p>岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。</p>				
<p>守屋(もりや)流巫女神道・巫女舞歌道</p>	<p>旧吉備王国全域、特に岡山県全域</p>	<p>同上</p>	<p>同上</p>	<p>●「守屋」の家名(のちの苗字)は、岡山県と長野県で別個に発生。岡山県のものは、中臣氏・藤原氏と物部守屋に由来し、おそらくはその子孫が假冒。全国中、岡山県が最多で50%、山梨県が30%、長野県が10%。</p>	<p>●当初の系統:原始巫女神道、芥子山磐座流、物部氏・齋部氏・大中臣氏(廢仏)系祭祀 ●近世までの系統:備前一宮神子座流巫女神楽、伊勢神道、吉田神道、吉川神道、垂加神道、儒家神道、古神道 ●近代以降の系統(巫女の供給先教団):岡山伯家神道(高浜神事秘法)、黒住教、金光教、神道大成教、天土御門神道、神道霊学、神道天行居</p>	<p>同上 ◆守屋家には、太古の時代は盟神探湯を行っていたという伝承がある。物部氏が盟神探湯を担当する祭祀氏族であったことと関係か。現在は排仏の思想はなく、神仏折衷思想である。 ◆その巫女神道・歌道に見られる言葉・文字を岩崎も解説・解釈中。</p>	<p>同上 ●近代以降の新宗教教団への参加のほとんどは、上記の国策(巫女禁断令や教派神道政策)による強制配属であり、家業の巫女神道を捨て去って新たな宗教思想に移行したのではない。</p>
<p>地域</p>	<p>巫女による道統の自称</p>	<p>巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴</p>	<p>現在の継承先</p>				

守屋神道の細分類	赤磐市石上地区に残るシャーマニズム		吉備巫女秘教神道、守屋教	黒住教、金光教、一部は独自に巫女神殿を設置 ●スサノオの剣が同地区の石上布都魂神社から奈良県天理市の石上神宮に移される前の秘伝を残す。最近、宮司や一部の巫女は姓を「物部」に戻しており、物部神道の起源が吉備にあるとする説を譲らない気迫が見える。	岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。	
	岡山市東区西大寺松崎、大多羅町地区に残るシャーマニズム		吉備巫女秘教神道、守屋教	黒住教、金光教、一部は独自に巫女神殿を設置	岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。	
	岡山市北区東花尻、西花尻地区に残るシャーマニズム		吉備巫女秘教神道、守屋教	黒住教、金光教、一部は独自に巫女神殿を設置 ●シャーマニズムの非迷信性(科学との整合性、医療効果)を説くため、丙午の迷信信仰(丙午生まれの女は夫の命を縮める、気性が荒いとする迷信)を非難し、1906年と1966年(丙午の年)の出生調整・墮胎増加の際には、全国の女性や近現代神道を呪う儀式を行った。巫女らの家伝によれば、それ以前の丙午の年にも行っていたと思われる。 ●また、鹿児島県霧島市のカヤカベ教の幹部や信者の住民らが、守屋神道に対して同流の秘教神道を名乗った際も、守屋神道の巫女らは、カヤカベ教が浄土真宗の異端派(隠れ念仏)であることを見抜き、「あなた方は神道ではない」と言ったと家伝にある。	岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。	
守安・森安(もりやす)流巫女神道・巫女舞歌道	旧吉備王国全域、特に岡山県全域	同上	同上	●「守安」の家名(のちの苗字)は、美作菅氏の庶流のもの。岡山県が最多で60%、和歌山県が20%。のちに、「鎮守の森(社)の安寧を守る」の意から「森安」の表記が生じた。「森安」も、岡山県が最多で40%。 ●当初の系統:原始巫女神道、芥子山磐座流、物部氏・齋部氏・大中臣氏(麿仏)系祭祀 ●近世までの系統:備前一宮神子座流巫女神楽、伊勢神道、吉田神道、吉川神道、垂加神道、儒家神道、古神道 ●近代以降の系統(巫女の供給先教団):岡山伯家神道(高浜神事秘法)、黒住教、金光教、神道大成教、天社土御門神道、ほんぶしん、神道霊学、神道天行居	同上 ◆その巫女神道・歌道に見られる言葉・文字を岩崎も解説・解釈中。	同上 ●近代以降の新宗教教団への参加のほとんどは、上記の国策(巫女禁断令や教派神道政策)による強制配属であり、家業の巫女神道を捨て去って新たな宗教思想に移行したのではない。
	地域	巫女による道統の自称		巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴	現在の継承先	

守安・森安 神道の細 分類	岡山市東区西大寺松崎、大多羅町地区に残るシャーマニズム		吉備巫女秘教神道	黒住教、金光教、一部は独自に巫女神殿を設置	岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。	
	岡山市東区大多羅町地区に残るシャーマニズム		共産神道吉備教	金光教、神道大成教、一部は独自に巫女神殿を設置 ●共産主義巫女神道である。岡山県知事、岡山県出身者が神社局長を連続で務めた時期(大海原重義、佐上信一、松本学、赤木朝治、大海原の再任)に集中砲火を浴びた神道。特に強硬な反共政策をとった松本学は、故郷の共産主義巫女を徹底的に迫害した。	岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。	
山本流巫 女神道・巫 女舞歌道	旧吉備王国全域、特に岡山県全域	同上	同上	●当初の系統:原始巫女神道、楯築墳丘墓流鬼神道、姫社系巫女神道、非ヤマト王権系祭祀、吉備国系祭祀、古墳文明系祭祀、蘇我氏(崇仏)系祭祀 ●近世までの系統:備前一宮神子座流巫女神楽、両部神道、山王一実神道、三輪流神道、古神道、修験道 ●近代以降の系統(巫女の供給先教団):岡山伯家神道(高浜神事秘法)、教派神道(神道十三派)、とりわけ神宮教、神習教、黒住教、金光教、神道大成教、禊教、天社土御門神道	同上 ◆その巫女神道・歌道に見られる言葉・文字を岩崎も解説・解釈中。	同上 ●近代以降の新宗教教団への参加のほとんどは、上記の国策(巫女禁断令や教派神道政策)による強制配属であり、家業の巫女神道を捨て去って新たな宗教思想に移行したのではない。
	地域	巫女による道統の自称		巫女禁断令・巫女掃討作戦開始後の逃避先 ●特徴	現在の継承先	
山本神道 の細分類	岡山市東区西大寺松崎、大多羅町地区に残るシャーマニズム		吉備巫女秘教神道	黒住教、金光教、一部は独自に巫女神殿を設置	岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。	
	岡山市中区国富地区に残るシャーマニズム		法華巫女神道山本流	黒住教、金光教、一部は独自に巫女神殿を設置 ●法華宗との習合が見られ、田中智學の国柱会や三男・里見岸雄の日本国体学に近づいたが、日蓮主義の男権思想と袂を分かち、法華経を巫女神道と習合させた一種独特のシャーマニズムを創り上げた。 ●草創期の創価学会に対しては、好意的に見ていたが、現在は学会に賛意を示す巫女は存在していない。西田無学・霊友会系教団にも、当初は好意的だったが、現状は異なる。	岩崎純一学術研究所(IJAI)が研究、継承、再興 ・・・IJAIの巫女には、黒住教・金光教に協力・所属して吉備舞を舞う巫女もいるが、むしろ吉備舞と巫女神道(反国家神道・反神社神道・反神社本庁の精神)を守るためだけに、これら教派神道に所属している巫女が多い。	

<p>女子道社・二所山田神社</p>	<p>山口県市 徳山市</p>	<p>同上 宮本重胤 宮本清胤 宮本公胤 女子道社員 近隣の主婦・女子</p>	<p>血縁(宮司) 二所山田神社宮司 宮本家 女子道社員 近隣の主婦・女子</p>	<p>899～ ●二所神社創建 1906～ ●機関誌『女子道』創刊 1907～ ●二所神社と山田神社が 合併し、現社名に。</p>	<p>●少なくとも『古今集』成立前後から、周辺地域の庶民の女子のみから成る歌壇を有していたと考えられる。 ●二所山田神社の宮司で、旧派・明星派・アラギ派など各和歌・短歌の歌人でもあった宮本重胤が、女性神主採用論や婦人参政権などの女性の権利を唱え、全国組織「(大日本)敬神婦人会」を設立。機関誌『女子道』刊行の資金源として、御神籤(おみくじ)が考案され、女子道社が創業された。御神籤には和歌が記載されている。 ●この女子道社では、宮司宮本家以外にも近隣の主婦歌人が多く勤務しており、和歌・短歌が詠まれている。</p>	<p>存続 ◆十数名の現役巫女(女子道社員)や旧巫女(旧社員)が旧派歌道を継承している。一部の巫女は、『記紀』神話・神社神道の系譜にない固有の神話・巫女神道を体得している。女子道社員の出身地は、山口・広島・岡山・兵庫県が多い。 ◆女子道社製の御神籤(おみくじ)は現在でもトップシェアであり、全国の7割の神社に供給している。掲載されている和歌は、『万葉集』や『古今集』などの歌もあれば、女子道社関係者作の歌もある。</p>
<p>その他、巫女神道・巫女舞歌道を有する全国の神社・社家の巫女(現皇統・神社神道とのつながりが見出せない非ヤマト王権系)</p>	<p>各神社の所在地</p>	<p>同上 巫女 大祝てい子 斎田良子 江沢華生 朝山かへ子</p>	<p>女性のみ 血縁(神官家・社家、以下はこれらの苗字) 御巫(みかなぎ、みかんなぎ、みかんこ)家 大主家 大祝(おおほうり)家 高祖(こうそ、たかそ、たかす)家 神社(こうこそ、かんじゃ、じんじゃ)家 上社・上許曾(かみこそ、かんじゃ、かみやしろ)家 大社(おおこそ)家 斎田・伊豆田(いつきだ)家 神道(しんどう)家 碓氷家 伊奈家 江沢家 朝山家 民間の女性 神社奉職の意のある女性を養女に。 ●主な年齢層: 10～80代</p>	<p>近代～戦後 ●有志のアルバイト巫女が神社を超えて歌道サークルを設けている場合が見られる。社務所は歌会のよい会場となっている。 ●歌道伝授を受けるために、貞淑であり、かつケガレの期間でない必要は、ほとんどない。</p>	<p>●象徴天皇の法制化と神道の宗教法人化及び神職世襲制の廃止により、表向きは「神宮」や「大社」を名乗る神社にも民間女性・女子学生を中心とするアルバイト巫女が増加しており、神社ごとに神官を師範とする独自の歌道が継承される時代ではなくなっているため、歌道に関心のある巫女どうしが神社を超えてサークルを組んで歌道をおこなっているのが現状である。 ●苗字について、伊勢外宮歌壇の最期の隆盛を担った御巫家との関連が考えられる御巫家、「鶴姫伝説」の大祝氏の末裔の一であると考えられる大祝家、実業家の大社義規をはじめ全国に比較的多い苗字である大社家など、旧社家の名残をよく残す苗字が目立つが、現在は、半ば世襲的ではあっても、大規模神社の巫女であるとは限らない。 ●高祖、神社、上社の苗字は岡山県に極めて多い。総社市福谷に姫社(ひめこそ)神社があるが、「姫社」は「神社」の原始的な名称であると考えられ、従って「姫社神社」は同語反復である可能性が高い。吉備地方が神社の発祥地であり、ここから全国に姫社、そして神社の名称が広がり、近代において「姫社」に「神社」が付され、「姫社神社」となったと考えられる。</p>	<p>一部でのみ存続 ●神懸り神事はほとんど行わなくなっている。 ●一部に秘伝的な歌道伝授あり ●ただし、多くの場合、神社内にとどまらず、地元の公民館などの公共施設で行われる和歌講座に参加したり、別項の鹿鳴歌会・彩雲会・清風会・五色花会・余情会など民間の和歌伝授サークルに参加することが多い。</p> <p>●巫女禁断令(1873、教部省発布、神霊の憑依などによって託宣を得る行為の禁止)と社家の世襲の廃止 ●大教宣布運動の失敗 ●神仏合同布教禁止令 ●神道事務局の設置と大教院の解散 ●教部省の廃止と内務省社事務局の設置、神社局と宗教局への分離、神祇院の設置による宗教行政の混乱 ●伝統的な神道・仏教や現在の神社本庁を中心とする神社神道から見た、教部省・大教院の神仏観の異質性 ●大教宣布運動・教派神道に参加した(政府・教部省によって厚遇された)歌人の出身地や、神道・仏教系新宗教教団の立教・立宗地の、岡山県への極端な偏りに伴う、歌壇の同県への偏り ●第一次世界大戦 ●日中戦争 ●第二次世界大戦に向けての戦時体制・国家総動員体制突入のため ●敗戦 ●新派短歌の全盛 ●近代社格制度の廃止</p>

(3) 古代ヤマト系神社神道から近代社格制度下・神社本庁統制下の古代神社・古道歌壇

(1)の原始の巫女神道と次項(2)の斎王系(ヤマト王権系)巫女神道との合同演舞を観覧できる近代巫女神楽の舞台(明治以降に作られた巫女神楽・巫女歌謡)

ここには、明治新政府による巫女神道排撃の国策にもかかわらず、その中で巫女神道擁護派の一部の神官・神職・社家・楽家(雅楽家)・作曲家・振付師・国文学者らが創作し、弾圧されていた多くの巫女らをして再び舞わせ、謡わせた、近代の神楽舞を掲載する。

明治政府は、平田復古神道を最も優先的に採用し、その復古主義・神道原理主義に基づいて神仏分離策、神道国教化策、国家神道創設などの国策を行ったにもかかわらず、一方では欧化主義・脱近世主義を混在させ、キリスト教文明圏に対抗しうる近代合理主義的な神社神道を確立するため、その国策の一環として、巫女禁断令(1873、明治六年一月十五日教部省達第二号として発布、梓巫市子並憑祈禱孤下ヶ等ノ所業禁止ノ件、神霊の憑依などによって託宣を得る行為の禁止)などを発布して巫女神道を弾圧した。

その結果、教派神道とその後継教団(『宗教年鑑』における教派神道系と諸教の教団)が巫女の避難・逃亡先となり、神懸り神事の奥義なども秘伝的に継承された。(しかし戦後は、次第に各教団が商業主義化するに伴い、靈感商法などの宣伝に巫女の神秘性が利用されるようになった。)

一方、この動きとは別に、巫女神楽そのものを日本国の正統の神道および神道祭祀として復興させる動きが神職や楽家から出始めた。春日大社社司の富田光美は、同社および富田家が相伝してきた倭舞・巫女舞(八乙女舞)をはじめとして、神道における巫女および巫女舞の保存と復興に尽くした。また、楽家出身で、宮内省楽部の楽長を務め、洋楽・オーケストラをも学んだ多忠朝が中心となり、多くの新たな巫女神楽を生み出した。多忠朝とその一派は、巫女神楽も復古神道と同様に日本神話に基づくことを示し、日本神道から抹消される謂われはないことを主張した。これらの巫女神道擁護の動きにより、大和朝廷の神道祭祀そのものを担ってきた斎王系・宮中三殿や神社神道系の巫女神道と、その配下に置かれ統制・弾圧されてきた非神社神道系の巫女神道とが、太古に袂を分かって以来、再び合同して舞台を形成する道が開けたのである。ここに、その近代における創作神楽を概説する。

流派名	本拠地	代表的歌人・歌論者・当主	流派の主体	流派の成立時期・成立事情(cは世紀)	特徴	衰退・分裂・断絶の時期(cは世紀。血統断絶の場合、掲載可能な限りその旨を記す。) ●衰退・分裂・断絶に至る記述 ◆は存続についての記述	衰退・分裂・断絶の理由 ●最終断絶以外(一時的な衰退など)の理由も記載した。 ◆は存続についての記述

<p>近代に作られた巫女神楽</p>	<p>全国の神社神楽殿(神楽堂、楽殿)</p>	<p>主に巫女神道の項で解説した女系巫女神道家の巫女や応募した巫女(御子、神子)</p>	<p>血縁・地縁 主に巫女神道の項で解説した各女系女子の社家の巫女や応募した巫女 「めかんなぎ(巫)」 「斎(いつき)の巫女」 「斎女(いつきめ)」 「巫女(御子、神子)」 「梓巫女(あずさみこ)」 「渡り巫女・歩き巫女」 「傀儡女(くぐつめ)」 主に女系男子 「おかんなぎ(靦)」 「傀儡子・傀儡師(くぐつし、くぐつ、かいらいし)」</p>	<p>明治時代～</p>	<p>●近代に作られた巫女神楽の代表例 ※ 神前神楽 浦安の舞、呉竹の舞、寿の舞、新年の舞、玉垣の舞、みたま慰の舞、八乙女の舞、靖國の舞(男舞を含む)、悠久の舞(元男舞、1964年の東京オリンピックに合わせて巫女舞に改作) ※ 祭祀舞 朝日舞(男性神職による男舞・宮司舞)、豊栄の舞 ※ 菅原道真公千百年大祭記念神楽舞 紅わらべ、桃李霞 ※ 吉備楽・吉備舞 吉備楽は、岡山の雅楽家・岸本芳秀ら吉備の雅楽家が雅楽と俗楽とを融合して創始。吉備舞は、吉備楽に伴う舞で(巫女舞も男舞もあり)、春日大社などの倭舞や東遊を融合して創始された。春日大社には吉備の巫女が多数所属しており、吉備舞の創始は事実上、悲願の帰省となった。芳秀は黒住教楽長となり、吉備楽・吉備舞は黒住教・金光教によく取り入れられた。 ●これらは主に国風歌舞や謡物の手法で作られたものであり、雅楽の御神楽の一種とも解されるが、神社祭祀に特化した新たな創作神楽であることからして、雅楽以前の神楽(里神楽)の意義を近代に蘇らせた、独自の神楽でもある。但し現在は、神懸り神事ではなく、様式化された奉納の舞として国や神社の主権において行う点で、上古代とは異なる。 ●宮中の御神楽(みかぐら)・舞楽の楽殿は舞殿ともいう。 ●民間の里神楽は、神社の楽殿のほか、演舞場、音楽堂、公民館や庭園の仮舞台、コンサートホールのステージなどを舞台とすることがある。また、神社の楽殿が巫女神楽以外の舞や歌謡、音楽のステージとして利用されることも増えている。</p>	<p>◆存続 明治政府による巫女禁断策や世襲社家の廃止策により、表向きは巫女舞(特に神懸り・託宣を伴うもの)と世襲巫女は存在しなくなった。しかし実際には、巫女たちは、非神社神道系神道(教派神道とその後継教団、現在の『宗教年鑑』における教派神道系や諸教)や修験道、陰陽道の界限に潜り込んで活動を続け、これら創作神楽の舞の担い手となった。 神楽の創作に伴い、明治以降の神社祭祀制度には存在していなかった巫女・女子の神社奉仕の制度が、舞の制度を中心に整備され、巫女・女子の神道参加への道が開けた。 舞を担う世襲巫女を多数輩出している女系の巫女神道家は、巫女神道の各家の解説を見よ。 但し現在は、世襲社家にルーツを持たず、神社祭祀・神楽舞ごとの募集に応募し採用された巫女も、創作神楽のよき舞い手となっている。また、これらの巫女が養女として社家を継ぐ場合もある。</p>
--------------------	-------------------------	--	---	--------------	---	--